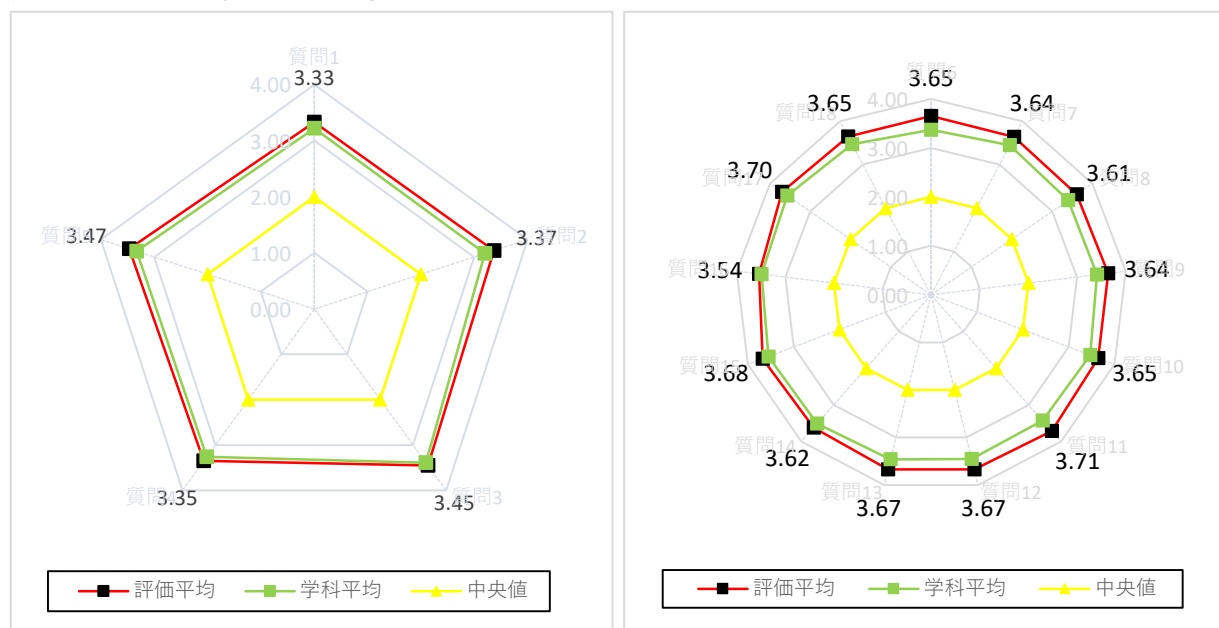


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		関連職種連携入門	134名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

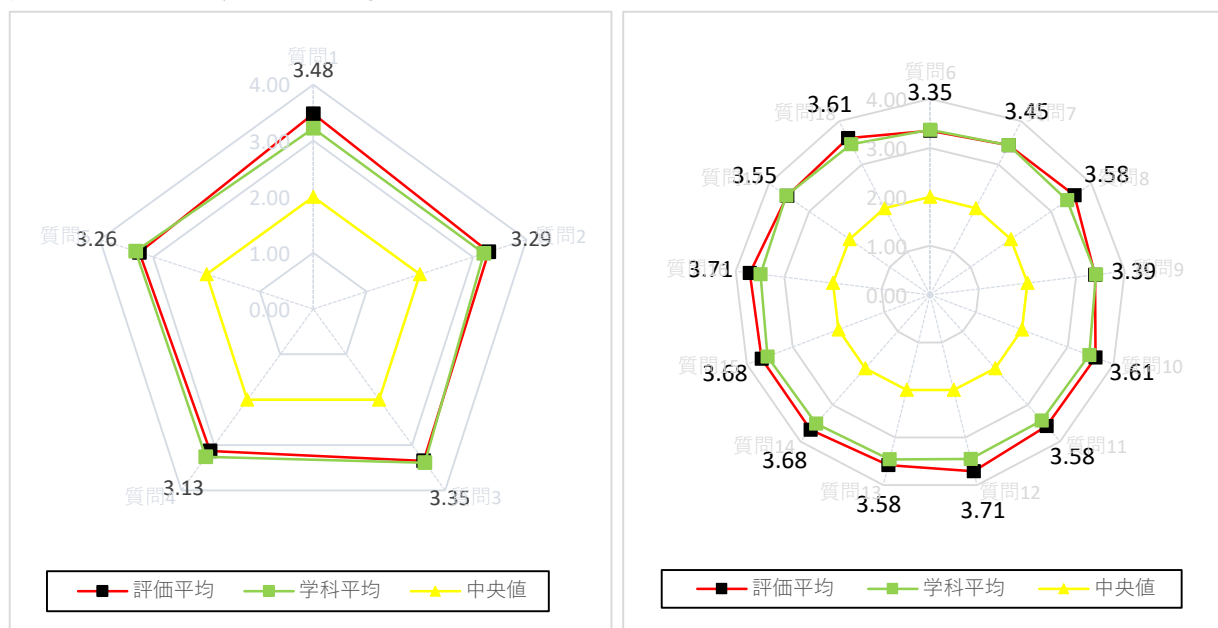
授業評価アンケートの回答率は90%以上であった。大半の質問項目において、共通教育科目全体平均を上回っていた。自由記述でも、「違う学部がどのようなことを学んでいくのか、どういう仕事なのかを知ることでお互いが理解し合える。」や「自分が目指す専門職以外の職種の説明を、実際その専門職である他学科の教員から講義を受けられるのが良かった。」というポジティブな評価が多かった。1年生前期という時期に本科目を開講することはメリットが大きいと考えた。前回（2022年度）に評価アンケートを行った際に共通教育科目全体平均を下回っていた質問14も今回は平均を上回っていた。今年度より対面講義となったことで直接担当教員に質問することができたと推察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

対面講義となったことの影響だと考えられるが、自由記述の中に「一方的な講義だけでなく、他学科の学生と対話して交流を深められるようにしてほしい。」という意見があった。1年生前期というレディネスで各専門職の役割を理解することは難しい部分があるが、講義の中でグループワークを取り入れる工夫を検討していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		文学と言語	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

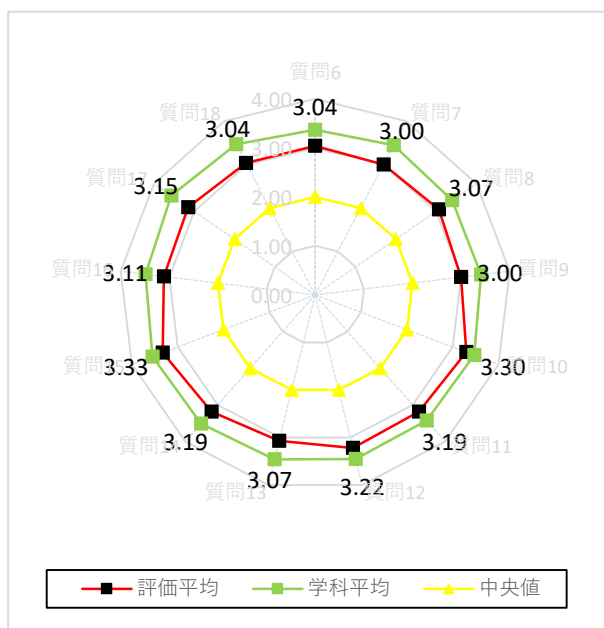
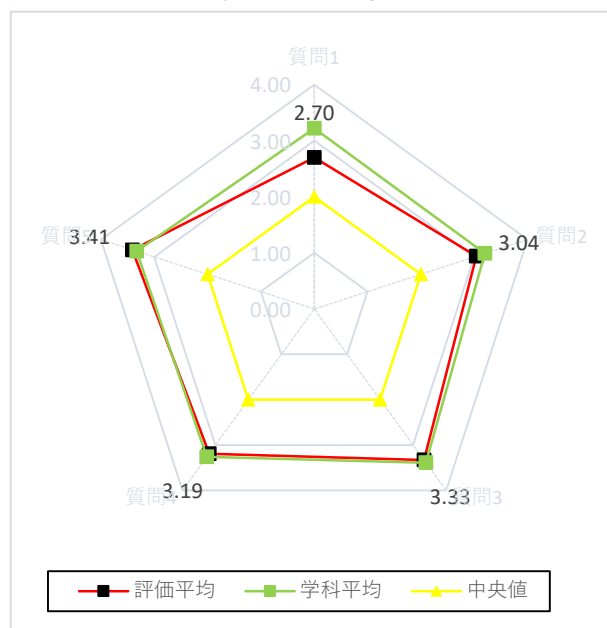
すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

すべての項目で満足できる結果を得ている。次年度以降も引き続き精進したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		文化人類学	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

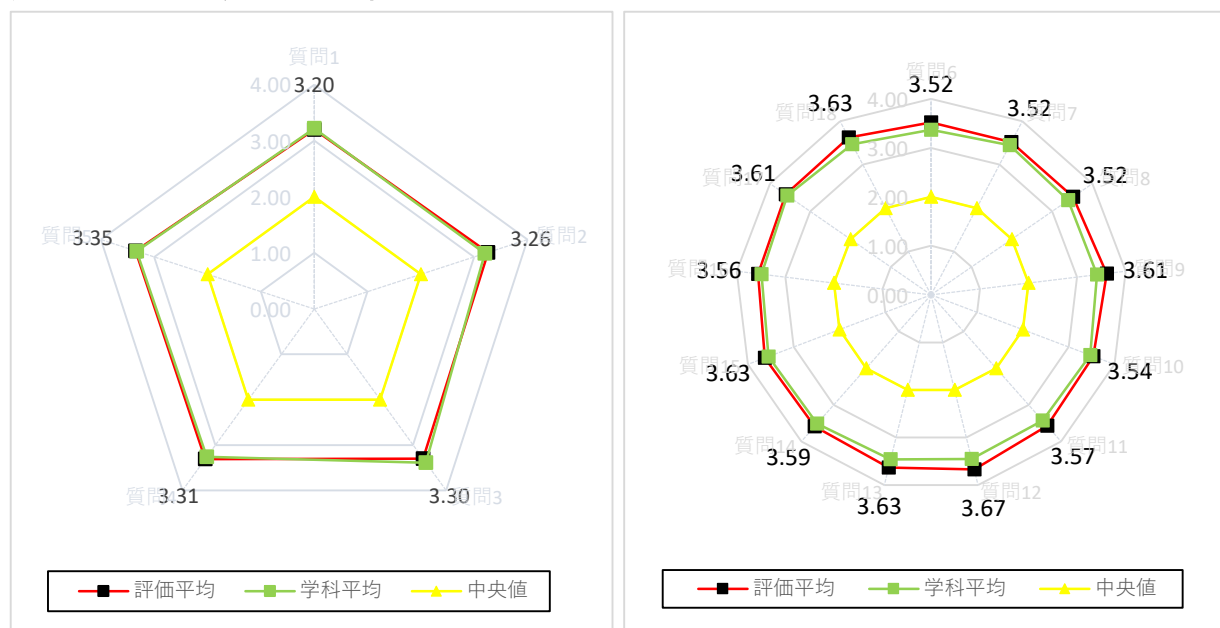
概ね目的を達成できた授業だったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生の意欲・態度をより引き出すような授業工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		くらしと経済	153名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

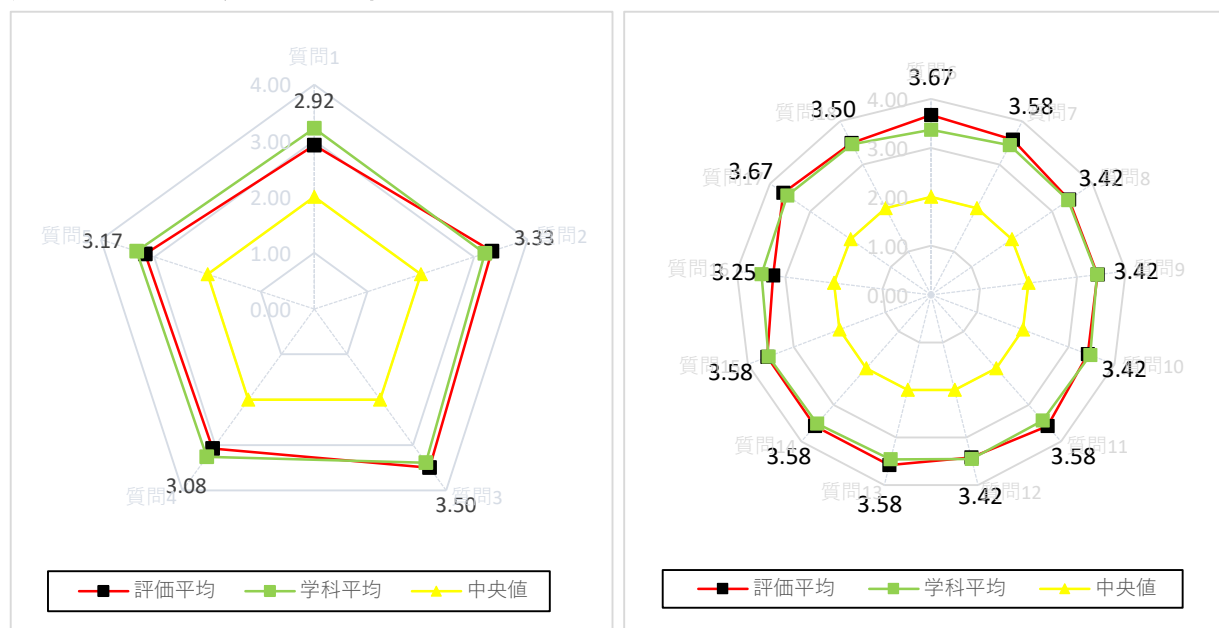
授業評価の結果は、概ね学科平均を上回るものとなった。わかりやすい授業を心がけた結果だと思われる。また、今年度からは授業時間に配布する資料を電子データで公開するなどして欠席した学生も資料を入手できるようにもしたのも良かったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も理解しやすいような資料を作成し、学生諸君の理解度を深める努力を行いたい。このような授業評価があることは、授業の改善に大いに役立ち、授業に対するモチベーションも上がると考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		生物と環境	22名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

教員は熱心に授業に取り組んでいたかや、授業をわかりやすくする工夫がされていたか、この授業の総合評価などの項目で学科平均以上の値が得られたことから、おおむね学生の理解を促進し、学生の満足度が得られたと考えている。

しかしながら双方向的なやり取りをしながら授業を行っていたか低い点数がついていた。

教員は毎回、授業の終わりに学生に質問の紙を配布し、質問があれば書くように指示していた。

しかし授業の終わり5分前に行っていたので、これをすぐ出せば授業から解放されと思った学生が多かったらしくともに質問を書かずにすぐに教室を出ていく学生が多かった。

このことから、質問のやりとりをしていないと感じた学生が多かったと考えられる。

このことから、質問の紙を配布するのは授業のまんなかあたりのタイミングに変更したい。

(3) 次年度に向けての取り組み

引き続き授業の質の向上に努めたい。

授業自体に問題はなかったと考えているが、質問の紙を授業の最後に配ったのが失敗だったと考えられる。

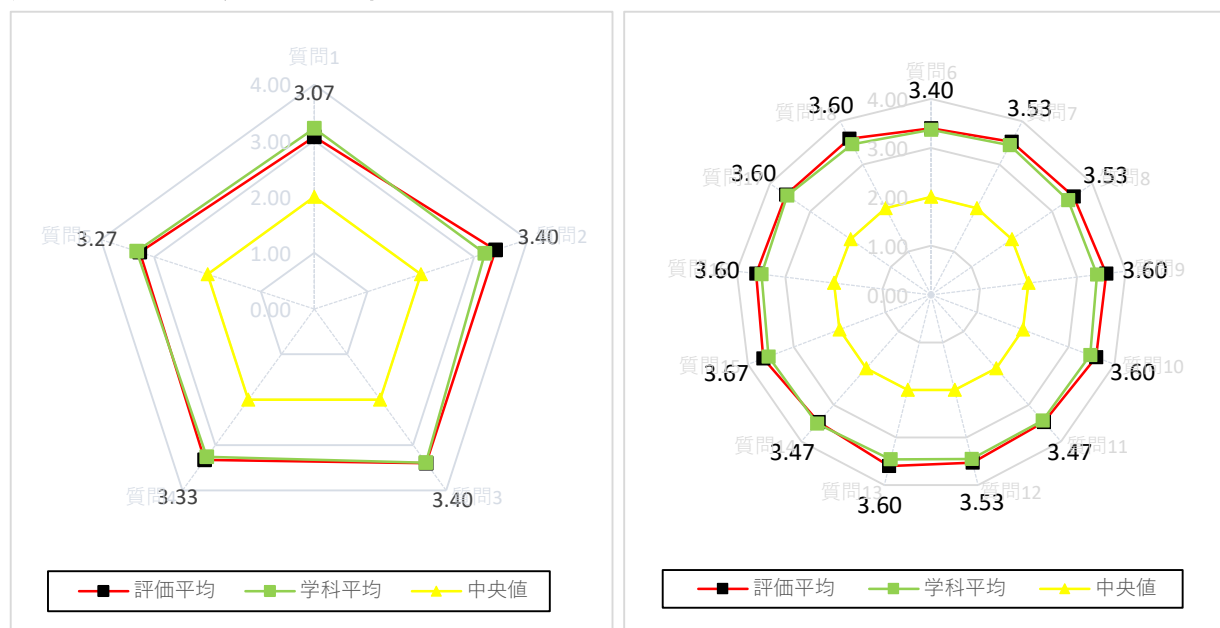
授業の終わりあたりに質問の紙を配ると学生はもう教室を出てもいいと勘違いしてしまい、質問をほとんど書かずにとにかく早く教室に出ることに専念してしまう。

このことから質問の紙を配るのは授業の真ん中あたりのタイミングにしたいと思っている。

このことで来年は双方向的なやり取りをしながら授業を行っていたか高い点数を獲得できると考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		地球環境科学	42名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

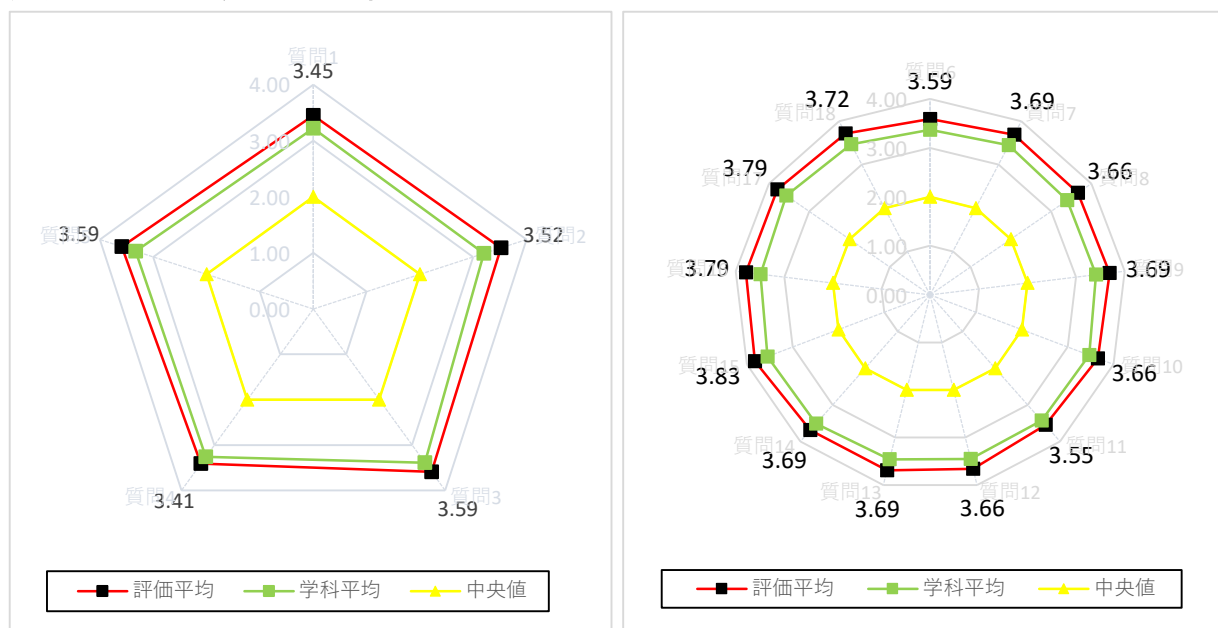
学生からの評価は概ね学科平均値と同じであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

地球環境問題は日々変化しており、授業内容についてもアップデートしていく予定である。アンケートの回答率についても、来年度は改善するように学生に指導したい、

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		フィットネス・スポーツ	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

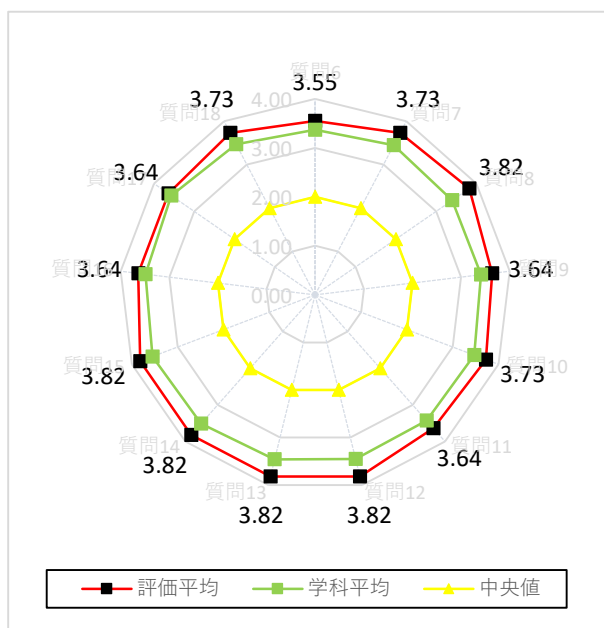
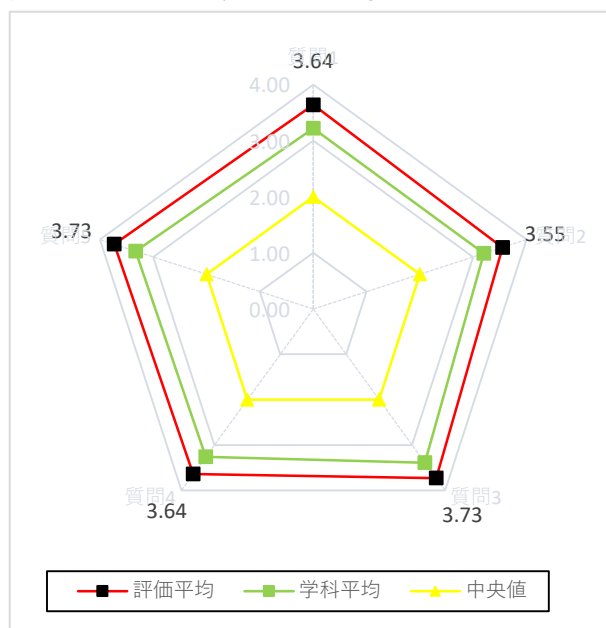
本科目は共通教育科目/健康スポーツの実技(選択科目)として、1年次の前期に開講している。教職をはじめ、スポーツ健康福祉学科では各種スポーツ関連資格取得に必修であり、各学科より33名が履修した。履修学生33名のうち29名から回答があり、すべての質問項目において学科平均を上回る評価を得た。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度より神埼キャンパスにおいて学科横断クラスでの実施となった。スポーツを通じて学科の枠を超えた学生同士の交流を今後も支援していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		フィットネス・スポーツ	33名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

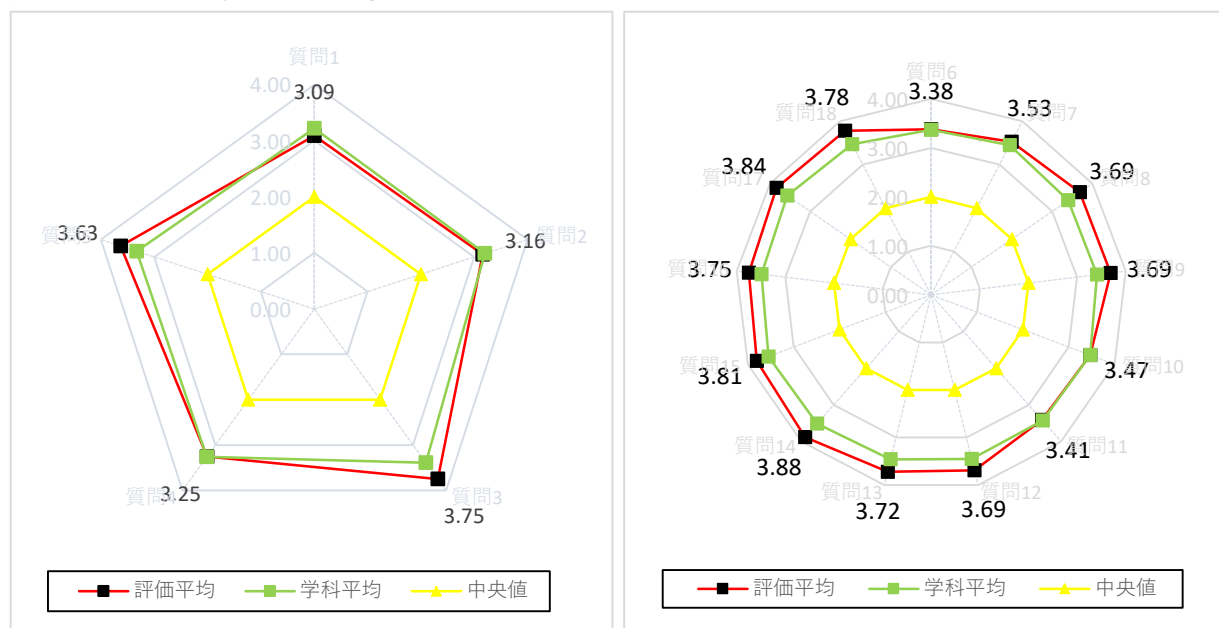
参加者は授業に積極的に取り組んでいる。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業全体の説明を行い、参加者がより楽しく積極的に授業に取り組めるようにする。
事故や怪我あないよう十分に配慮する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		フィットネス・スポーツ	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

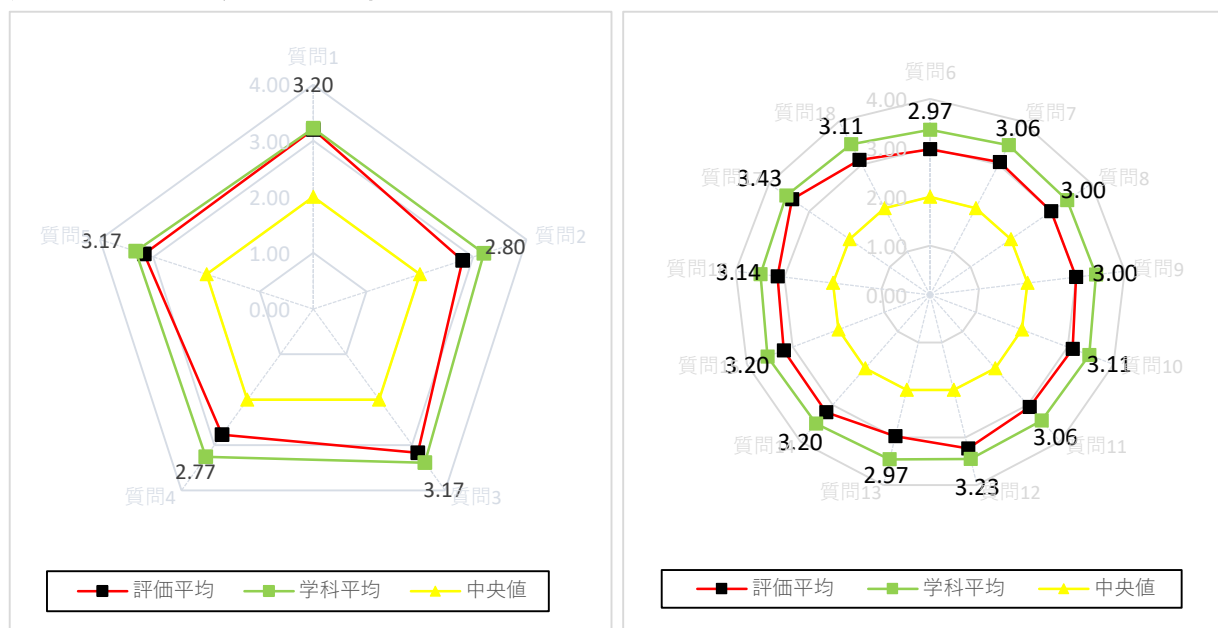
共通教育科目で、社会福祉学科とデジタル社会共創学環以外の学生が履修し、ほぼ全員より回答が得られた。各学科のアンケート集計表を集約した結果であるために詳細な分析は難しいが、学生自身に関する項目では質問1の授業出席で評価平均が3.09と他の質問項目より評価が低いものの、ある程度良好であると考えられる。また質問6以降の項目では、質問6、質問10、質問11で他の質問項目よりやや低い評価であったものの、質問18が示している通り評価平均が3.78と高い評価を得たことで、全体的には良好であったものとする。自由記述では他の種目のスポーツを実施してほしかった内容もあったが、天候やいろいろな条件が揃わないとなかなか実施が難しいこともある。ただ、特定の種目だけではなくて、多くの室内および屋外の種目を実施できたことは、今後のスポーツライフにも活かせるものと察する。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度はこの授業科目を担当しないが、今回のアンケート評価を他の授業にも活かしていきたいと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 子ども学部	健康栄養 スポーツ健康福祉 子ども		ウェルネス・スポーツ	36名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

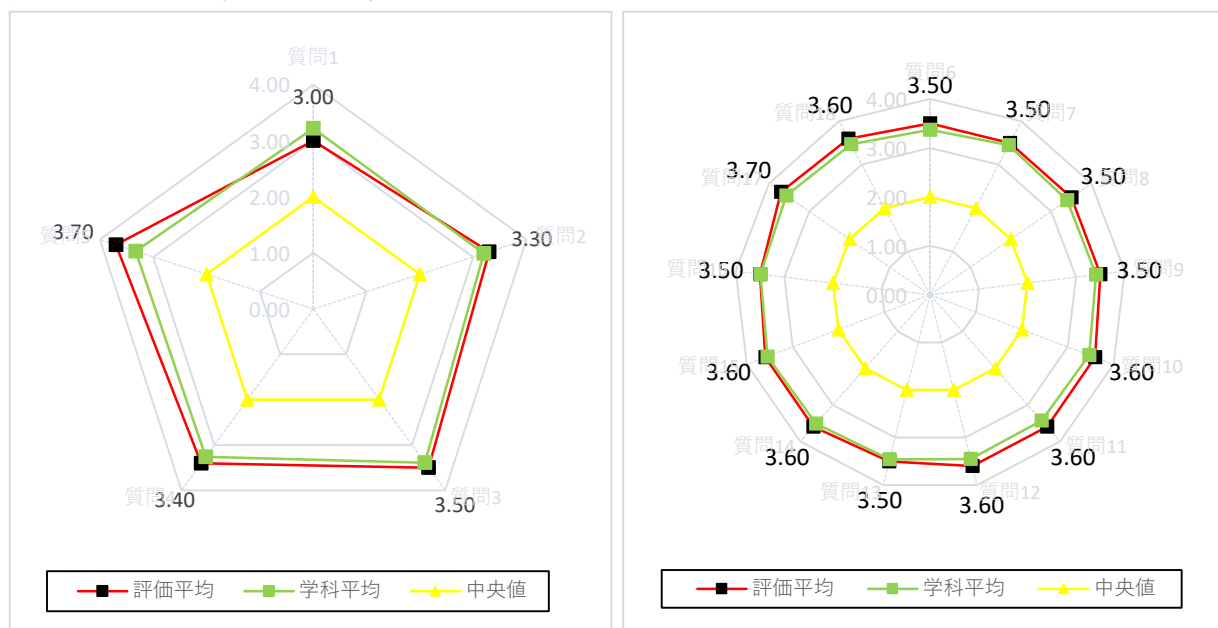
履修者36名のうち35名からの回答を得た。まず学生自身に関する授業評価で項目で、質問2のシラバスの活用と質問4の授業への工夫については評価平均が3.0に達していなかった。総合自己評価は3.17で、さらに高い評価になるよう支援していきたい。質問6以降では評価3の回答が全体に多いものの、評価1や評価2も目立つ。評価平均が3.0以下の質問6 (2.97) シラバス説明と質問13 (2.97) 授業の進む速さについては、特に改善、検討を要する内容である。逆に評価平均が高かった質問17 (3.43) の授業取り組みの熱心さが評価されたことは大変うれしい。また授業内容の具体的感想を記述欄で確認できたことで、今後一層の改善に向けた努力をしたいと思っている。

(3) 次年度に向けての取り組み

この授業は身体活動を伴う実技であり、これまでの養育機関で親しんだ運動種目や好みの種目がある一方、苦手とする種目があることで、種目設定が難しい。これまでにやったことない種目を取り入れながらできるだけ多くの種目が経験できるよう選定したが、天候等で計画通りには実施できないこともあった。次年度は今回の学生評価から少しでも改善、工夫した授業が展開できるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 スポーツ健康福祉 リハビリテーション		ウェルネス・スポーツ	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

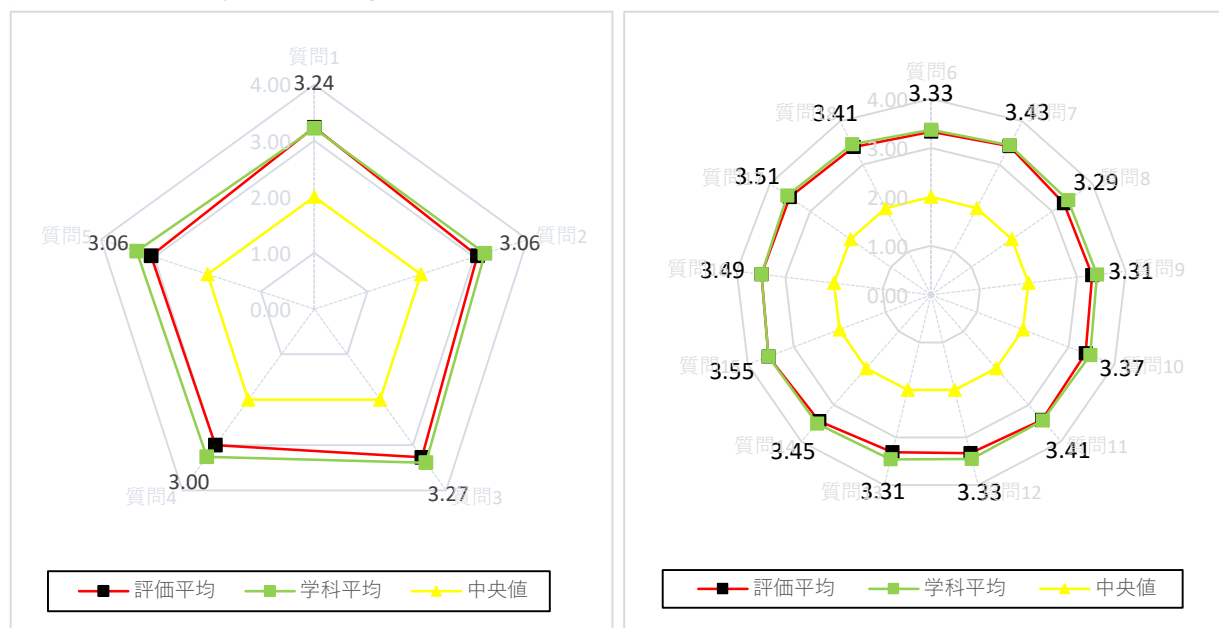
気候の影響もあるのか、欠席が多いものの、授業には積極的に取り組んでいる。

(3) 次年度に向けての取り組み

後半になると寒くなってくるため、自己管理の声掛けやモチベーションがさがらないような内容の工夫。怪我や事故がないような配慮。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		データサイエンス入門	52名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

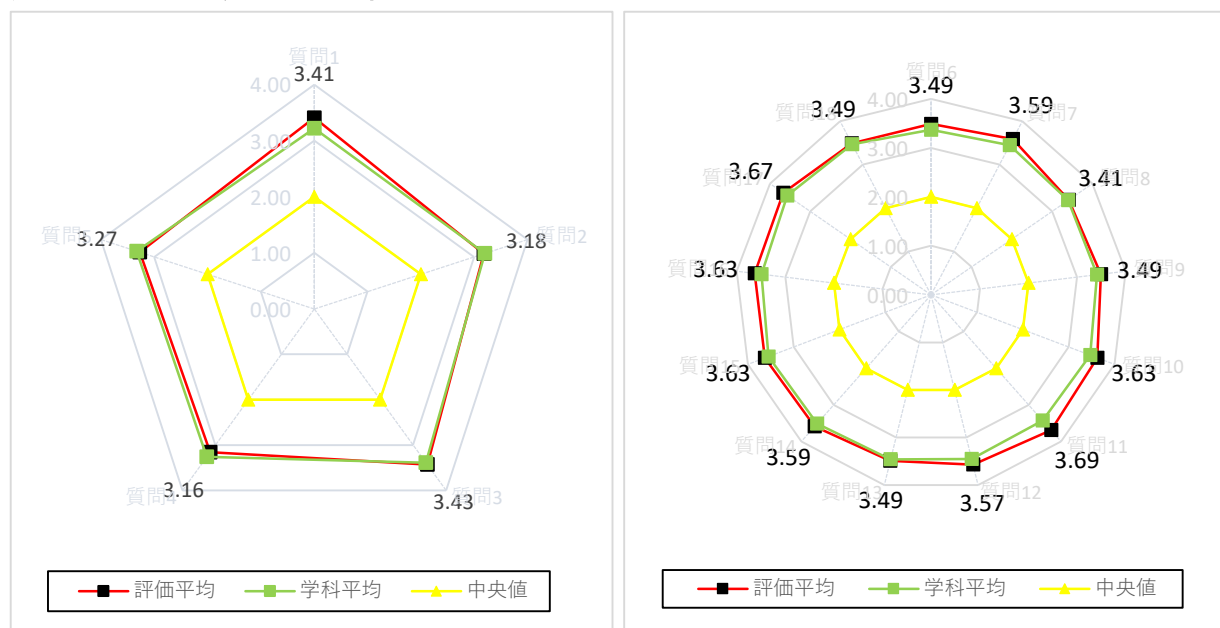
リテラシーレベルのデータサイエンスの知識は全学科共通して必要であることを随時説明しながら講義を進めたが、一部学生は苦手意識もあり難しく感じたようである。中盤以降、PowerPoint、Excelの操作については演習を中心に展開した。概ね教科書の内容の操作はできるようになったと考えられるが、授業の進行も早く感じた学生が少なくなかったようであり、改善が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の進行方法に関しては、できるだけ明確で時間内に達成できる課題を提示する必要がある。一方で、学生のレディネスに差があり、PC操作に苦手意識を持つ学生も少なくないことから、到達度の設定が難しい点でもある。共同学習などの手法を用いてクラス全体の理解が深まる工夫をする必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		データサイエンス入門	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

他のクラスと同一の内容を保証する必要がある為、独自の内容、表現を使った説明はできる避けた。その上で可能な範囲で、学生の興味、関心を引くような解説を加えた。

適宜グループワークを採用し一方的な授業にならないように工夫を行ったが、学生により参加の積極性に差があった。

小テストで理解度の確認を行いつつ授業を進行したが、自宅での学修に繋がらなかった学生も居たようである。質問をTeams上で受け付けるなどの工夫があれば、疑問を解決する助けになったかも知れない。

留学生の対応については非常に苦慮した。コミュニケーションが成立しない場面があり、一方的な授業展開となったことは反省点である。

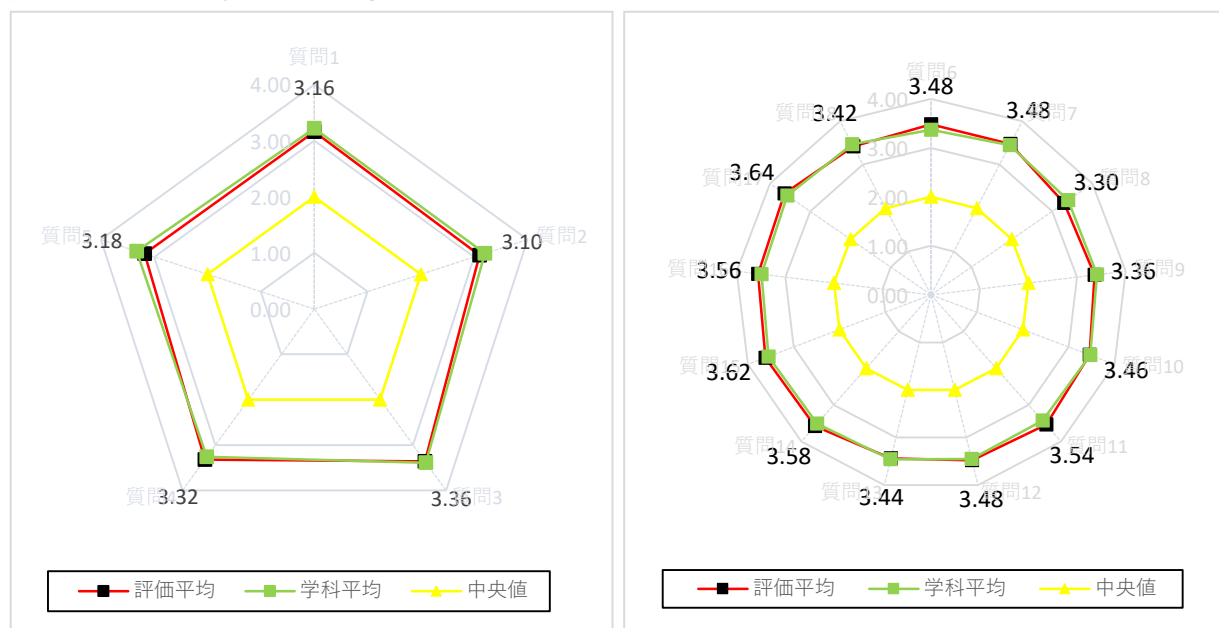
(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当を外れるが、共通教育を担当したことは大きな学びとなった。

質的な保証をするための教員間のディスカッションを通して、教授方法について考える機会となった。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 リハビリテーション学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		データサイエンス演習	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学生自身の授業に取り組む姿勢等の評価に加え、授業構成や教員の教授方法の資質に関する評価について、全ての項目において概ね高レベルのスコア、且つ学科平均のスコアと同様のものであるので、授業の満足度は高いと考えられる。特に、教員側として、授業準備・双方向の授業を心がけたことで、約3.6（90%）のスコアを頂いたものと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

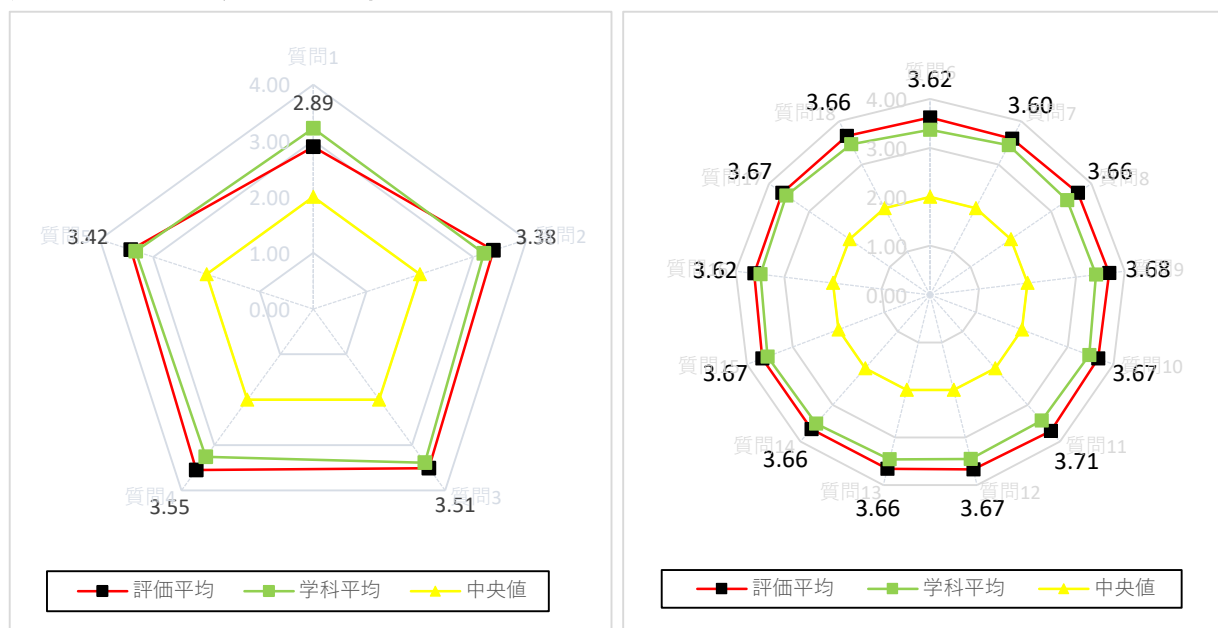
学生の個別意見で、教室の机配置、マイクの雑音等の設備・機器に起因する問題（聞き取り易さ、見易さ等）の指摘があった。それらは、教室の整備等に対応して頂きたい。教員として、設備や機器の不具合などは、事前の教室の下見等で対応を考えたい。

R6年度は、授業の一部にグループワークを試み、学生には概ね好評であったので、R7年度でも幾つかの改善（グループワークの少人数化、効果的に共同作業がし易い配慮）を行った上で再度試みたい。

ここで学生からの授業評価の扱いについて、注意点を促したい。共通教育科目（全学教育）では、受講者の学力レベル大きな格差を鑑み、授業内容の難易度がやや低くなる傾向がある。つまり、ある程度学力レベルの高い学生にとって容易に単位が取り易くなる。一般論として、学生にとって単位が取り易いものは、授業評価が高スコアになり易い。また、スマホいじり、睡眠学習など不真面目に授業を受けた学生は、本人の責任にもかかわらず、授業内容を理解できずに悪い評価を付け易い。従って、学生からの授業評価が高い、あるいは低いスコアだからと、それらのスコアで教員の教育能力を評価するのは、注意を要すると思われる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆衛生学Ⅱ	85名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

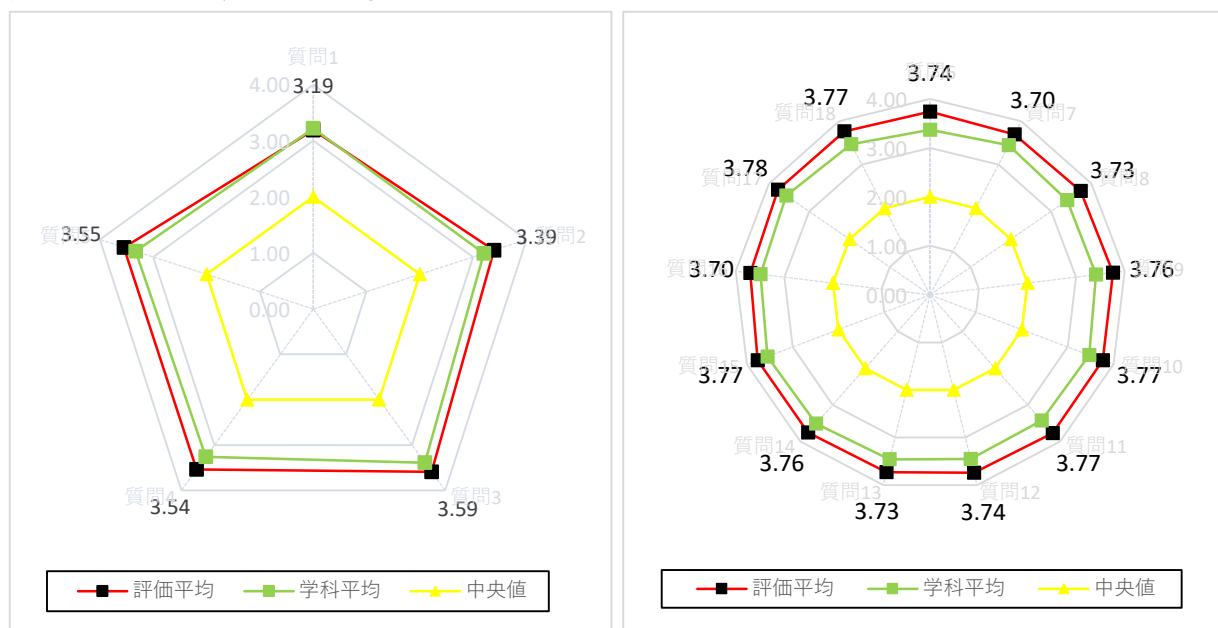
- ・ 学科平均との比較は、学生自身の受講姿勢に関する質問1-5はほぼ同程度あるいは低い値であったが、教員の教授姿勢に関する質問6-18は全項目にわたって学科平均より高値を示していた。
- ・ 特に低い科目については、質問1の「欠席回数」である。こればかりは教員にはどうすることもできない。健康管理関連セクションに学生の健康管理について注意喚起をお願いしたい。
- ・ 自由記述は、1名の学生よりプリントを配って下さっていたので、復習に活用できました。」という記載であった。よい評価であると受け止めている。今後もさらにプリント類を充実させ学生の復習を支援したい。
- ・ 本科目「公衆衛生学Ⅱ」疫学・統計学、スクリーニングと公衆衛生学の中でも学生たちが苦手とする分野である。他大学でもこの分野が苦手という学生が多い中、授業に対しては問8興味関心が持てる工夫、問9わかりやすさはじめ、すべて3.68以上のポイントだったことは、日頃から学生のレベルを見極め、毎年レベルを勘案した授業準備、例題提示を怠らない教員の姿勢に対する評価をもらったと自負している。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 復習プリントがありがたいという自由記述があったことから、プリント類を充実させたい。
- ・ 学生たちのレベルを見極めて、授業で取り上げるエピソード、例題等さらに工夫を重ねた上で授業を添加したい。
- ・ 次年度は、今の評価を維持するか、4点満点に持っていくのみである。
- ・ 次年度新たに導入したいと考えている授業方法は現在考案中、企業秘密である。
- ・ 「公衆衛生学はおもしろかった」「公衆衛生の方に進みたい」といわれるような授業を展開したい。そのためにインプットを怠らず精進したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆衛生学 I	79名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

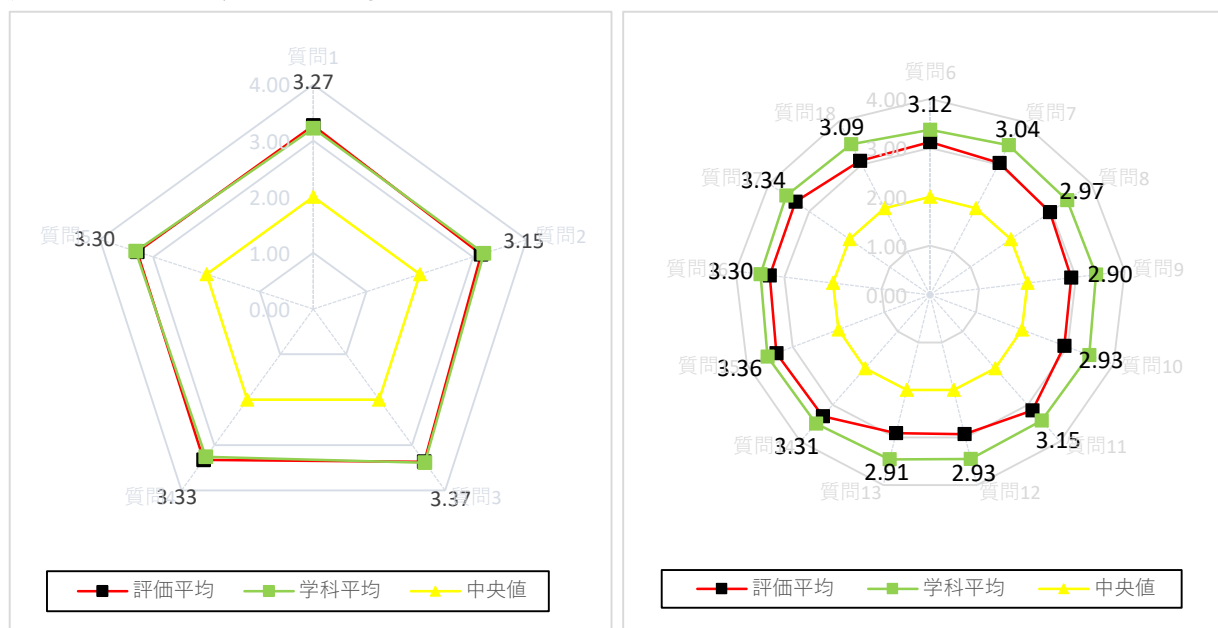
- ・ 学科平均との比較は、学生自身の受講姿勢に関する質問1-5はほぼ同程度の値であったが、教員の教授姿勢に関する質問6-18は全項目にわたって学科平均より高値を示していた。
- ・ 特に低い科目については、質問1の「欠席回数」である。こればかりは教員にはどうすることもできない。健康管理関連セクションに学生の健康管理について注意喚起をお願いしたい。
- ・ 自由記述は「横尾先生がきっかけでこの大学にきたので、授業を受けることが出来てうれしかったです。」「統計の基本的な計算方法がわかりました。」「たのしかった」「楽しい授業ありがとうございました！テスト頑張ります」という記載であった。今後もさらにわかりやすく楽しい授業を心がけたい。
- ・ 本科目「公衆衛生学1」はこれから3年にわたり公衆衛生関連4科目の導入という位置づけになる。この科目が学生にとってつまらない、わかりにくい科目であれば、今後の公衆衛生関連科目が忌避される可能性が高い。そのような重要なゲートである本科目に対して、問6-18は高評価であったことは、毎年レベルを勘案した授業準備を怠らない教員の姿勢に対する評価をもらったと自負している。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 学生たちのレベルを見極めて、授業で取り上げるエピソード、例題等さらに工夫を重ねた上で授業を添加したい。
- ・ 反省は特にない。今の評価を維持するか、4点満点に持っていくのみである。
- ・ 次年度新たに導入したいと考えている授業方法は現在考案中、企業秘密である。
- ・ 高校時代に出張講義で授業を受けて、横尾に期待して入学してくれた学生を、卒業まで裏切らないレベルの授業を展開したい。そのためにインプットを怠らず精進したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品加工学	81名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

・学科平均との比較では、学生自身の項目では平均と比べてシラバスの活用がやや低く、他は同じ程度であった。教員に関する内容では、全体的に低い結果であった。特に「授業の分かりやすさ」や「進め方」などに関しては、低い結果であり見直しをしたいと考えております。食品の加工に関する理論上の事であるため工夫が必要であると考えます。(Aの総合評価 3.15、Bの総合評価 3.15)

・自由記述についての分析と評価

自由記述は、具体的な要望があり、今後の対策が取りやすい内容であった。改善することにより、評価が上がるよう改善したい。①座席に関する要望。②授業内容の要望として、重要語句の部分の色付け、穴埋め部分を広くするなど。③授業の進め方の要望。であった。

・授業全般に関する反省点は、初めて担当する授業であったため、進め方、内容に改善する余地がある。

・回答率は、67/80 83.8%であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

・授業評価の結果で特に低かった項目に対する改善方法

「授業の分かりやすくする工夫」と「視聴覚機器や黒板の使い方」としては、パワーポイント図や写真や図などを入れる。「関心が持てる工夫」では、実際の商品などを持参し、触れてもらうことによって、より興味を持ち、加工食品の理解を深めてもらう。日頃から商品に関心をもってもらう。「声の大きさ・明瞭さ・話す速さ」「授業の進む速さ」では、学生が理解出来る速さで進められるように改善する。

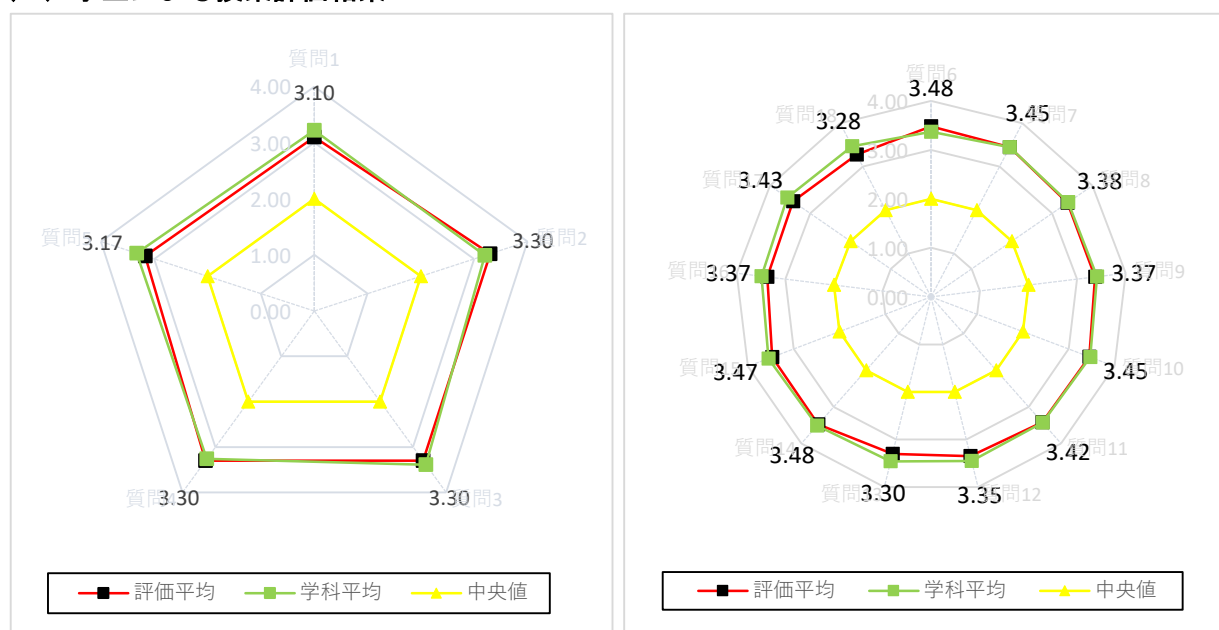
・授業全般の反省に対する取り組み

授業全般の反省では、自由記述にあった、具体的な要望の改善である。①座席については、15回中2回席替えを行う。②授業内容の要望では、重要語句の色付けや穴埋め部分の改良をする。③授業の進め方は、ポイントの絞り込みを行う。

次回は、もっとより良い授業が出来るように取り組みたいと思います。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		ライフステージ別栄養学	84名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

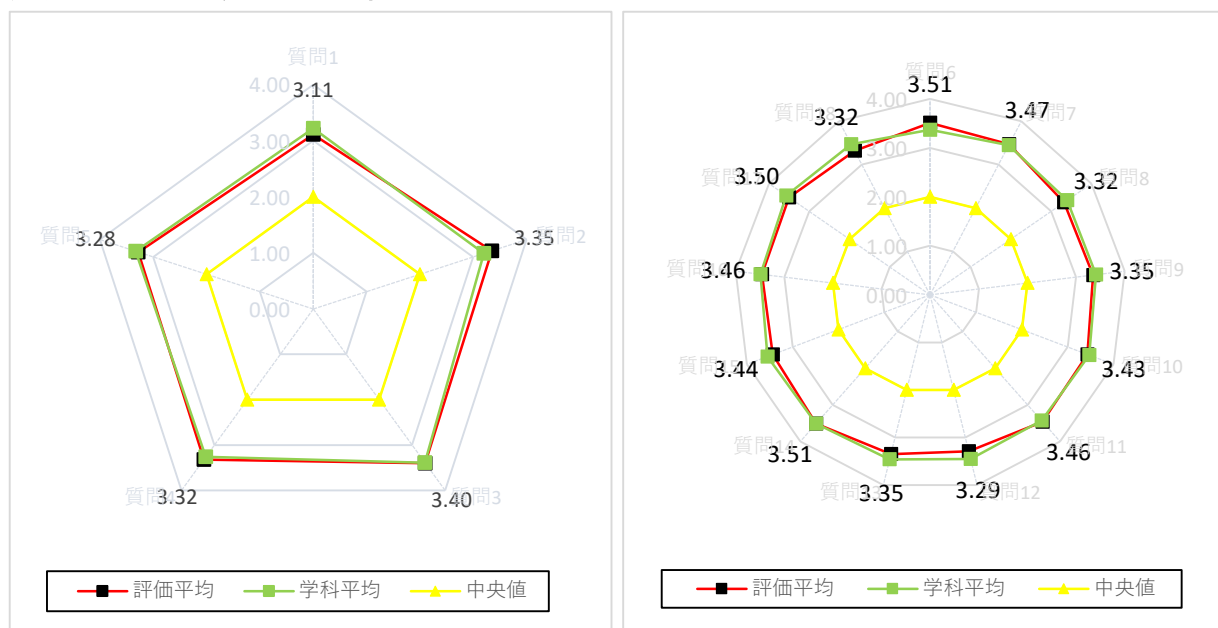
ライフステージ別栄養学の授業評価においては、すべての項目において学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると数名ではあるが授業のペースが速い・言葉が難しいと回答した者もいたことから、学生によっては理解度に差があると考えられる。ゆえに、個々の理解度や反応に配慮し、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

メモ取りの状況を含め授業スピードにおいては学生のリアクションを意識しつつ、重要ポイントがより明確となるよう授業展開を工夫していきたい。また、学生自身が意欲的に学べるようオンライン型システムを活用し、繰り返し練習問題に取り組める環境作りやリアルタイムでのフィードバックなど、個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食事摂取基準概論	80名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

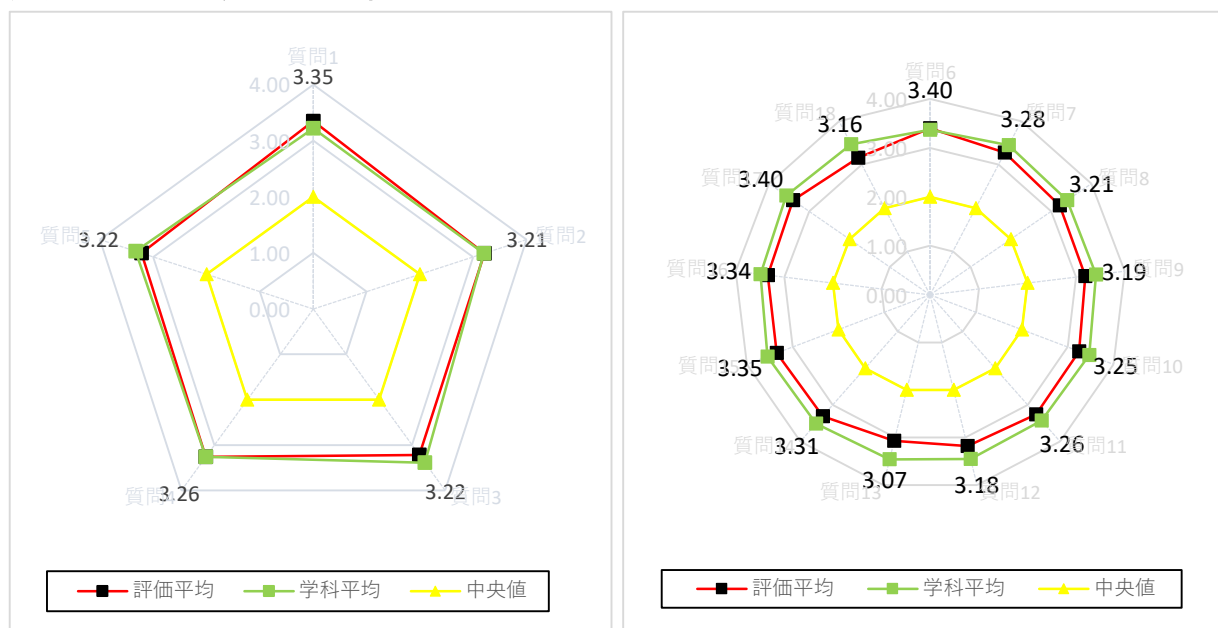
食事摂取基準概論の授業評価においては、すべての項目において学科平均と同じレベルにあった。おおむね満足できる内容であったと考えているが、個別コメントを見ると数名ではあるが授業のペースが速いと回答した者もいたことから、学生によっては理解度に差があると考えられる。ゆえに、個々の理解度や反応に配慮し、より双方向的な授業となるよう改善の余地はあると思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

メモ取りの状況を含め授業スピードにおいては学生のリアクションを意識しつつ、押さえるべきポイントがより明確となるよう授業展開を工夫していきたい。
また、学生自身が意欲的に学べるようオンライン型システムを活用し、繰返し練習問題に取り組める環境作りやリアルタイムでのフィードバックなど、個々の理解度や反応に配慮した授業展開になるよう意識していきたいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養マネジメント概論	97名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

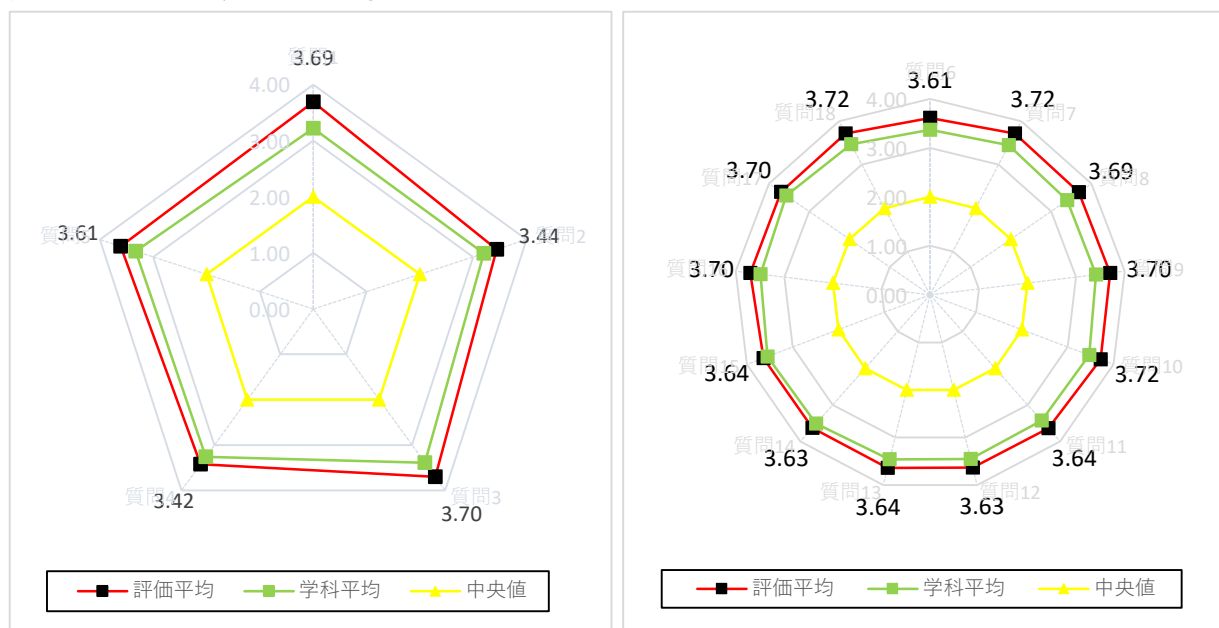
- ・ 回答率は、Aクラス77%（53人中、48人提出）、Bクラス62.8%（43人中、27人提出）であった。最終授業日に授業評価を実施したが、教室のwi-fi接続不良のため、一部の学生は後日実施してかまわないとした。
おそらくそのまま評価を実施していない学生がいたものと思われる。
- ・ 評価の結果は、全体的におおむね学科平均と同様である。
しかしながらやや低い評価であるのは、専門教育科目が始まったばかりで勉強についてこれていない学生が出てきていることも関係すると思われる。
- ・ 評価項目の、質問13授業の進む速さが、一番低い結果となっているのがその証拠と思われる。
- ・ 大人数での講義科目であるため、ひとり一人の理解度を確認しながら進めるのは困難であるため、授業の進め方はもう少し工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 授業を進める速さについては、今よりもさらに丁寧を心がける。
実際には、授業時に使用するスライドや、ワークシートなどで工夫したい。
- ・ さらに、大人数の科目であるため、座席もできるだけ教員に近い場所に座らせて様子を確認できるようにしたい。
具体的には、座席を指定して後方に座らせないようにして、学生の表情等を確認しながら進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		調理実習 I	70名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学科平均と比べ学生の質問項目である質問1～5も教員評価の項目質問6～18に関して、全体的に良い結果であった。(IAの評価平均 3.57、IBの評価平均3.7)

特に質問1での出席は良く、質問5の学生の自己評価も高く、熱心に授業に取り組んでいた。教員に対する評価も質問16・17・18が良かった。

本授業の目標、ねらいである。実習を通して基本的な調理技術や食品の性質に応じた調理法を習得できたと考える。到達目標である段取り良く複数の調理作業が行えるなど、楽しく実習をしており、掃除なども熱心であった。

自由記述はなかった。

回答率は、91.4%であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の結果で低い項目はなかった。

授業全般の反省点は、学生にわかりやすくするため、ビデオ撮影を行った。その結果は、大変好評であったが、もう少し、学生の動きを見て、指導できるようにしたい。

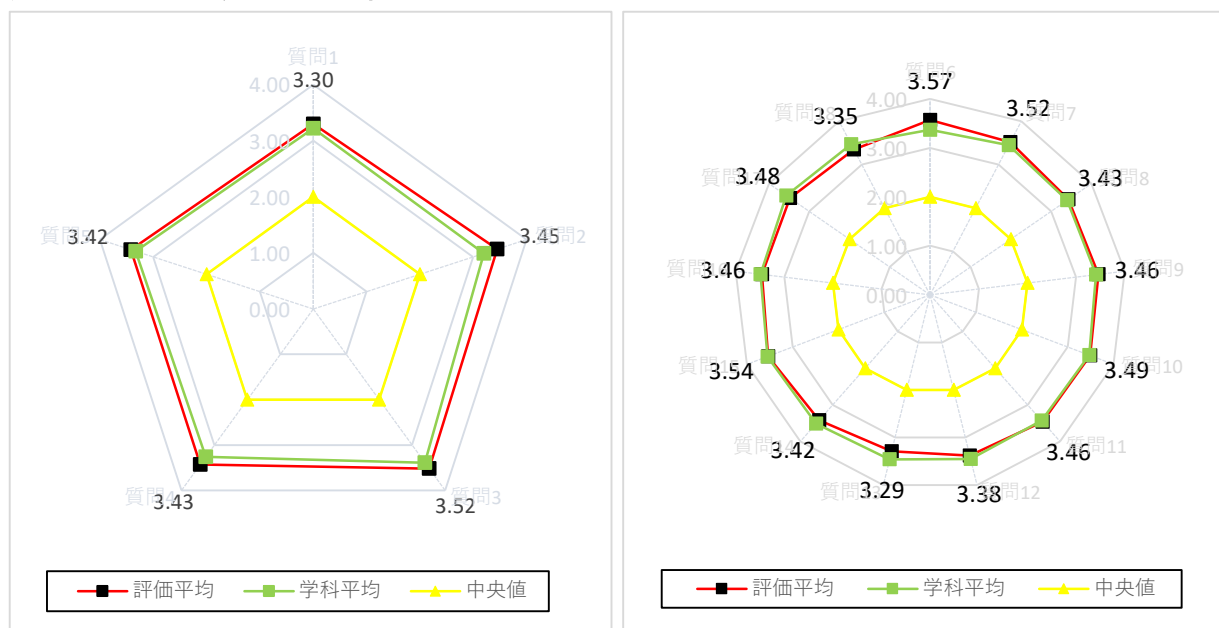
改善点では、授業終了後すぐに次の授業(講義)があるため、掃除のチェックを助手の先生に任せた点である。最後まで学生を指導できるように時間を延ばしたい。要望したいと考えている。

次年度も、学生にわかりやすい授業を行っていきたいと思う。また、調理実習ⅡやⅢとの献立の内容を伺い、重なりがないかをお尋ねして、改善を試みたいと考えている。

メニューの変更を行い、数多くのメニューに対応できるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養療法論	80名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

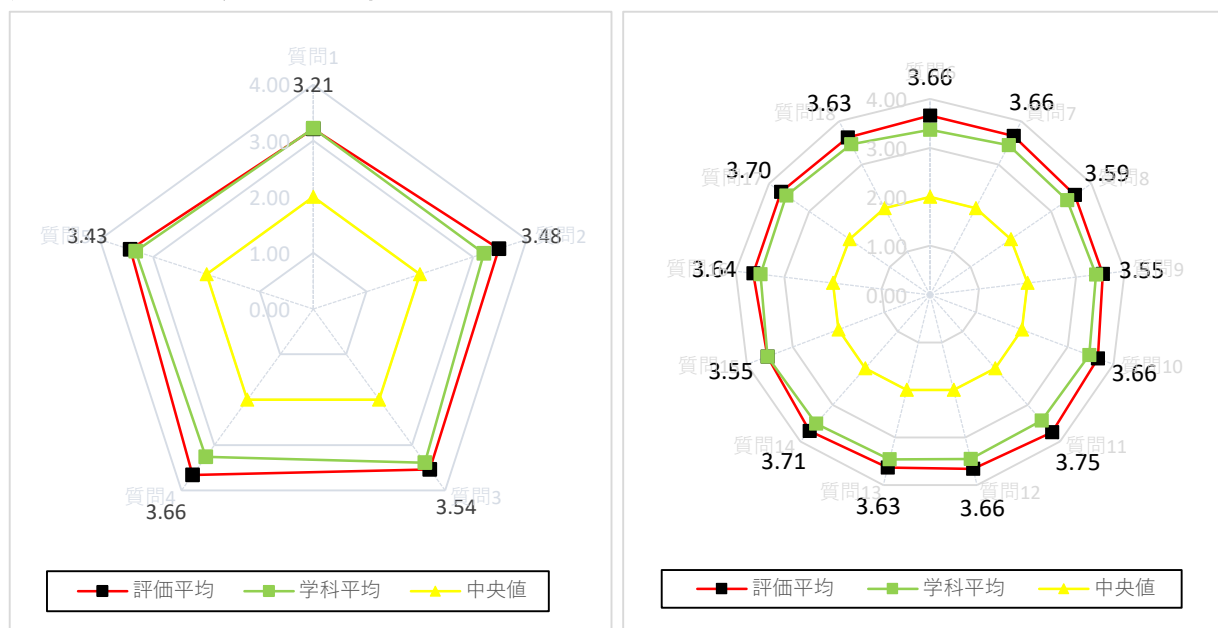
- ・ 回答率は、Aクラス93%（43人中、40人提出）、Bクラス80.6%（36人中、29人提出）であった。Bクラスの回答率がやや低いのは、授業評価を実施した際の欠席者がいたためと思われる。
- ・ 結果は、おおむね学科平均と同様である。
- ・ 特に評価結果の高かった項目は、質問6・7・15であった。
- ・ 比較的评价の低い、質問項目は質問13であった。
- ・ 大人数での授業であるため、ひとり一人の理解度等を確認しながら進めるのは困難であるため、どうしても授業の進度についてこれない学生が出てしまう。
- ・ 年々、理解度が低下している傾向にあるため、もう少し授業内容を工夫する必要があると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 授業の進む速さについて、工夫したい。
具体的には、授業で触れる内容をもう少し絞り、できるだけ授業スピードをゆっくりにしたい。
- ・ また、授業のスライドやワークシートも工夫して、学生自身が理解度を確かめながら授業に参加できるようにしたい。
- ・ 全体的に学生は真面目に取り組んでいる傾向であるため、引き続き意欲を維持できるように授業を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学 I	79名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

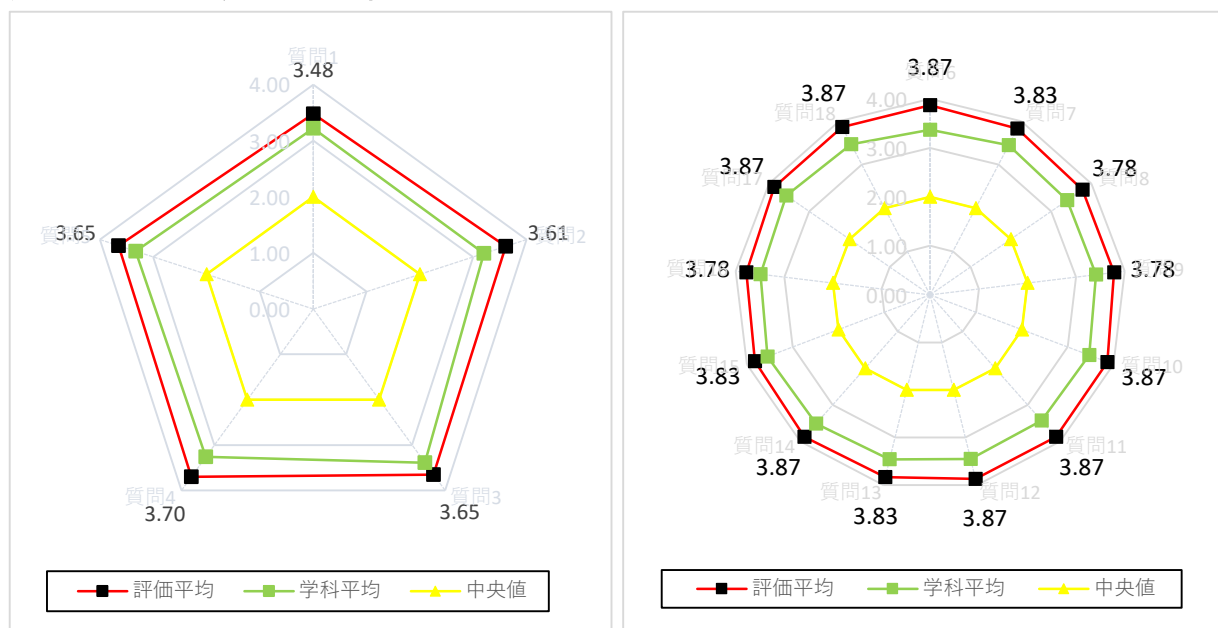
全体的評価においては全てにおいて学科平均と同等または上回っていると考えられる。授業の進め方については、学生はおおむね満足していると考ええる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加する姿勢を持てるよう、授業内容等の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学Ⅱ	86名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

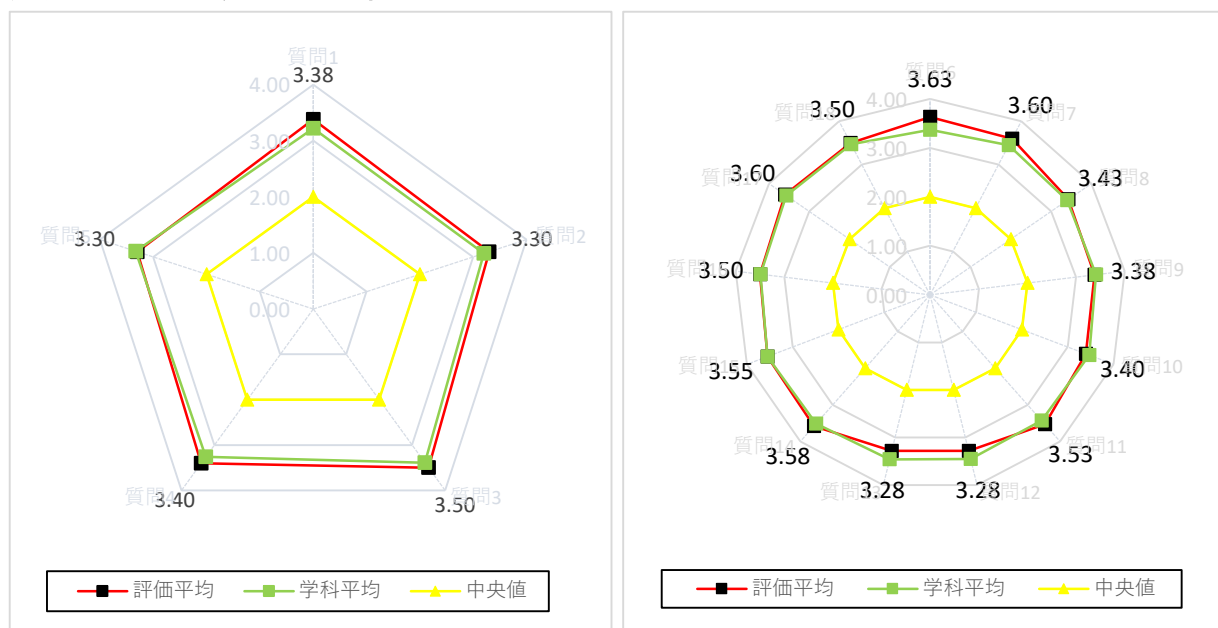
全体的評価においては全てにおいて学科平均と上回っていると考えられる。授業の進め方については、学生はおおむね満足していると考ええる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加する姿勢を持てるよう、授業内容等の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健栄ゼミ（基礎１）	41名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

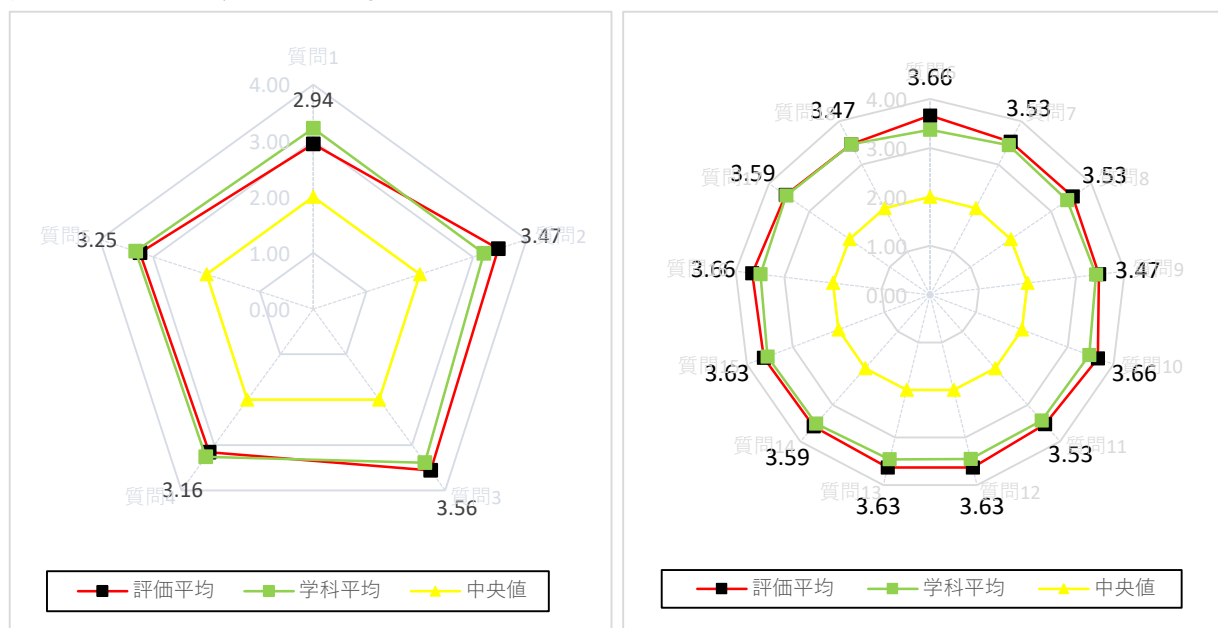
- ・ 学科へ金と比較して、おおむね同様の評価であった。
- ・ 比較的评价の低い項目は、質問 1 2 ・ 1 3 の声の大きさやスピードに関する部分であった。
科目の特徴として、演習形式の内容が多いため、一部の学生についてこれていない者がいたと考える。
- ・ 比較的评价の高い項目（評価が3.5以上）は、質問 6 ・ 7 ・ 1 1 ・ 1 4 ・ 1 5 ・ 1 6 ・ 1 7 であった。
授業の丁寧さや学生への指導などが高く評価されたものとする。
- ・ 回答率97.5%（41人中40人が提出）と高い回答率であった。

（３）次年度に向けての取り組み

- ・ 2024年度で比較的低かった声の大きさについては、教室のマイクが故障したり、電池がなかったりのトラブル等があったため、事前に確認するなどの対策をしておきたい。
また、授業のスピードについては、演習時についてこれていない学生のフォローをするために、机間循環を増やして対応していきたい。
- ・ それ以外の反省点として、PCの操作説明を丁寧なことにすることである。
PCの基本操作だけでなく、事前に設定しておくべきことすらも設定が終わっていない学生がかなりの数いたため、作業の進捗に差が出てしまった。
ステップごとにできているかの確認を入れるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健栄ゼミ（基礎1）	38名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

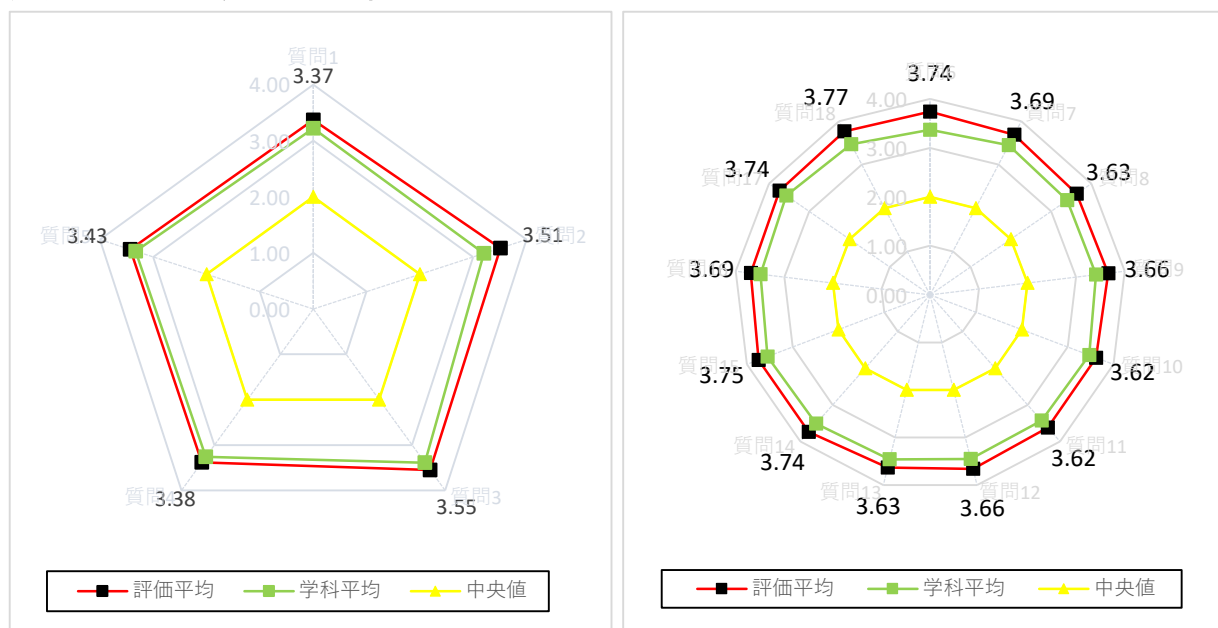
健栄ゼミ（基礎Ⅰ）の授業評価においては、各項目において学科平均とほぼ同程度にあり、進む速さや教員との双方向性については良好な結果であったことから、おおむね満足できる内容であったと考えている。とはいえ、本授業は学生自身が考え、課題を発見し・解決策を見つける展開を重視しているため、当該スタイルを苦手とする学生もいると考えられる。学生誰もが楽しく、自主性や知的な問題に取り組む姿勢の向上が達成できるよう、学生個々のレベルに応じた授業取組みのための配慮は今後も重要であるとする。

（３）次年度に向けての取り組み

健栄ゼミ（基礎Ⅰ）は、アクティブラーニングを主とする授業であるので、学生がより意欲的に取組めるよう双方向性を意識した授業展開を今後も模索していきたい。また、教員からの積極的な声掛けとともに個々の理解度や反応に配慮したアドバイスを心がけることで、問題解決能力がより高まることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		公衆栄養学実習	78名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

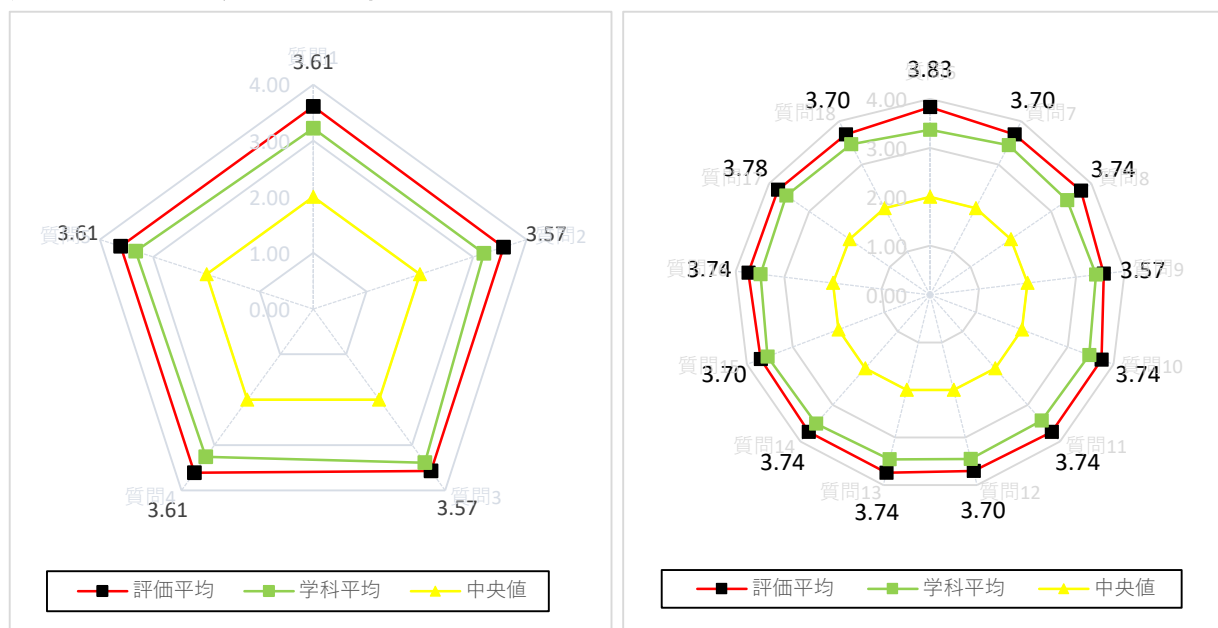
全体的評価においては全てにおいて学科平均と同等であると考えられる。授業の進め方については、学生はおおむね満足していると考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加する姿勢を持てるよう、授業内容等の工夫をし、グループワークを多く取り入れていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健栄ゼミ（基礎2）	26名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

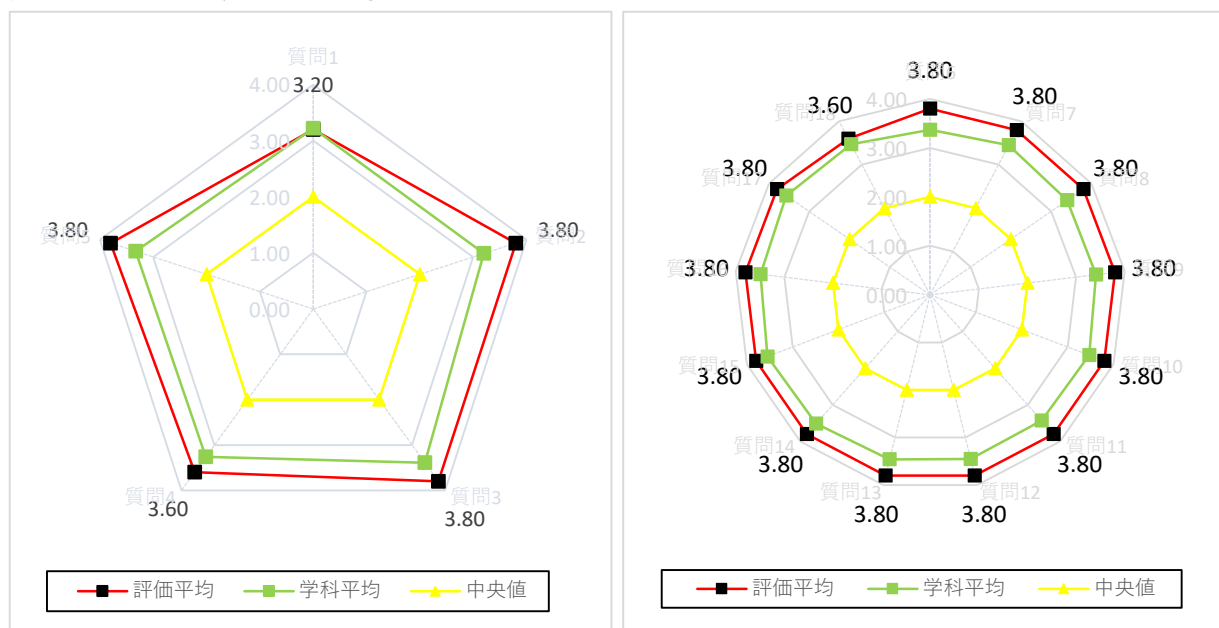
全体的評価においては全てにおいて学科平均を上回っていると考える。授業の進め方については、学生はおおむね満足していると考える。地域での栄養教室開催に向け、学生たちは積極的に学習できたと考える。

（３）次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加する姿勢を持てるよう、継続して授業内容等の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		健栄ゼミ（展開）	28名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

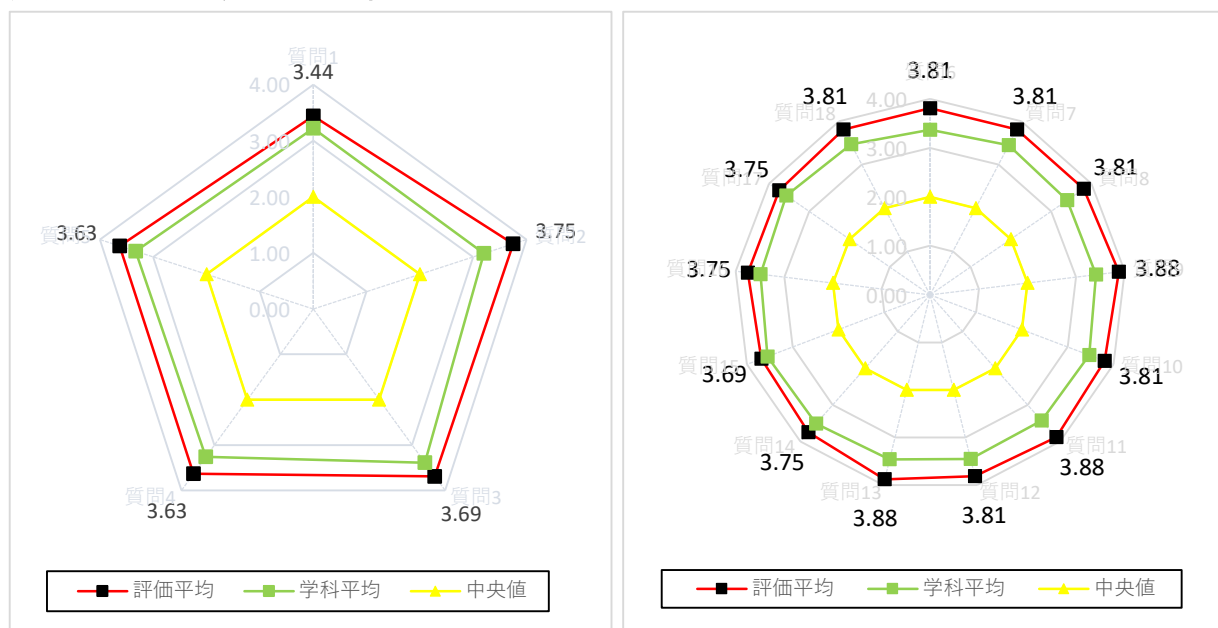
全体的評価においては全てにおいて学科平均を上回っていると考える。授業の進め方については、学生はおおむね満足していると考える。地域での栄養教室を開催し、準備から実施を通して、学生たちは積極的に参加できたと考える。

（３）次年度に向けての取り組み

学生が興味をもち積極的に参加する姿勢を持てるよう、今後も継続して授業内容等の工夫をしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		栄養総合演習Ⅲ	75名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

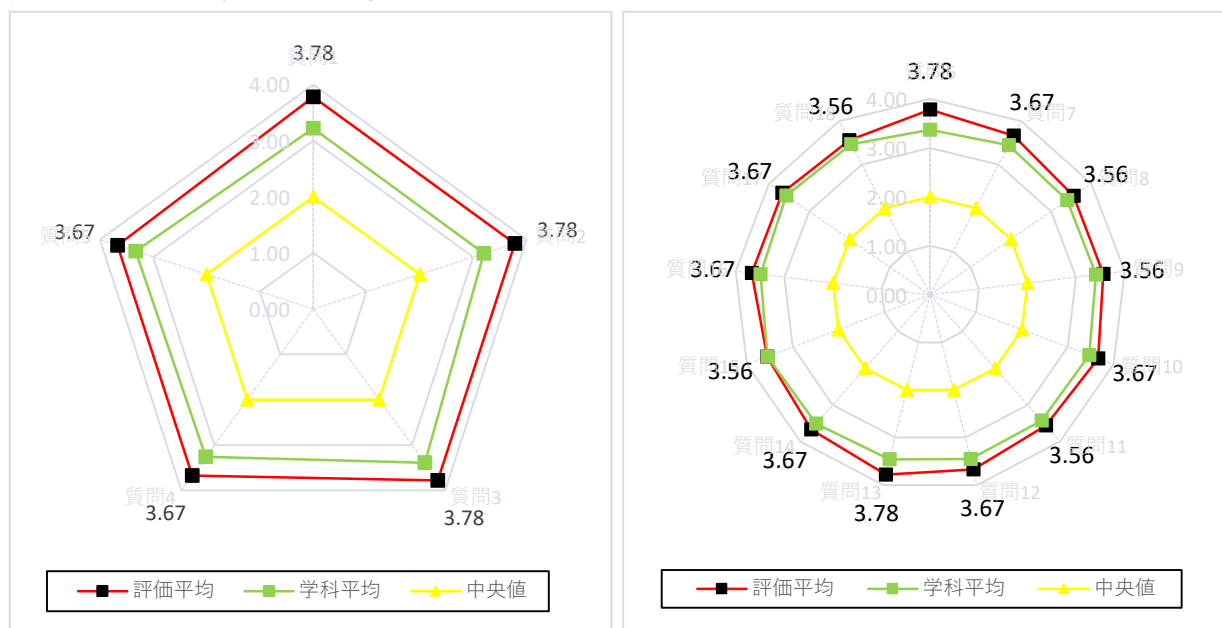
全体的評価においては全てにおいて学科平均を上回っていると考える。授業の進め方については、学生はおおむね満足していると考える。学外実習の事前事後指導内容であり、実習に向け、学生たちも積極的に参加できていた。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後も同様の進め方を継続していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		臨地実習Ⅲ（公衆栄養）	75名

（１）学生による授業評価結果



（２）結果の分析と評価

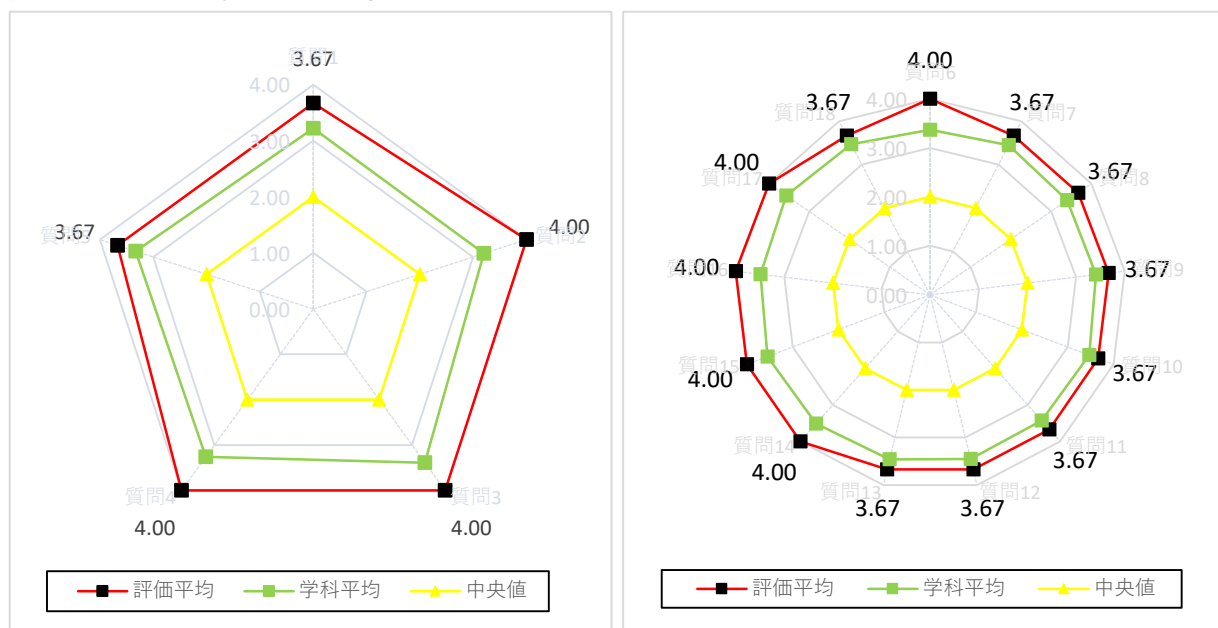
全体的評価においては全てにおいて学科平均または上回っていると考ええる。学外実習であり、現場での実践的学習を体験できたことにより、より多くのことを学ぶことが出来ている。

（３）次年度に向けての取り組み

今後も継続していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		食品衛生学実験	67名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

回答がAクラス1名、Bクラス2名の計3名で回答率が4.5%であった。これまで何回も授業評価を行っているが、こんなに回答率が低いのは初めてである。これは、最終授業を試験直前の土曜日にTeamsで実施させる得なくなったためだと思う。なので、この3人の評価をこの授業の評価と判断するのは、正確ではないと思うが、参考までに分析を行う。

まず、質問1～5についてである。どの項目も学科平均より上回っており、やる気をもってこの授業に取り組んでいてくれたことがわかる。

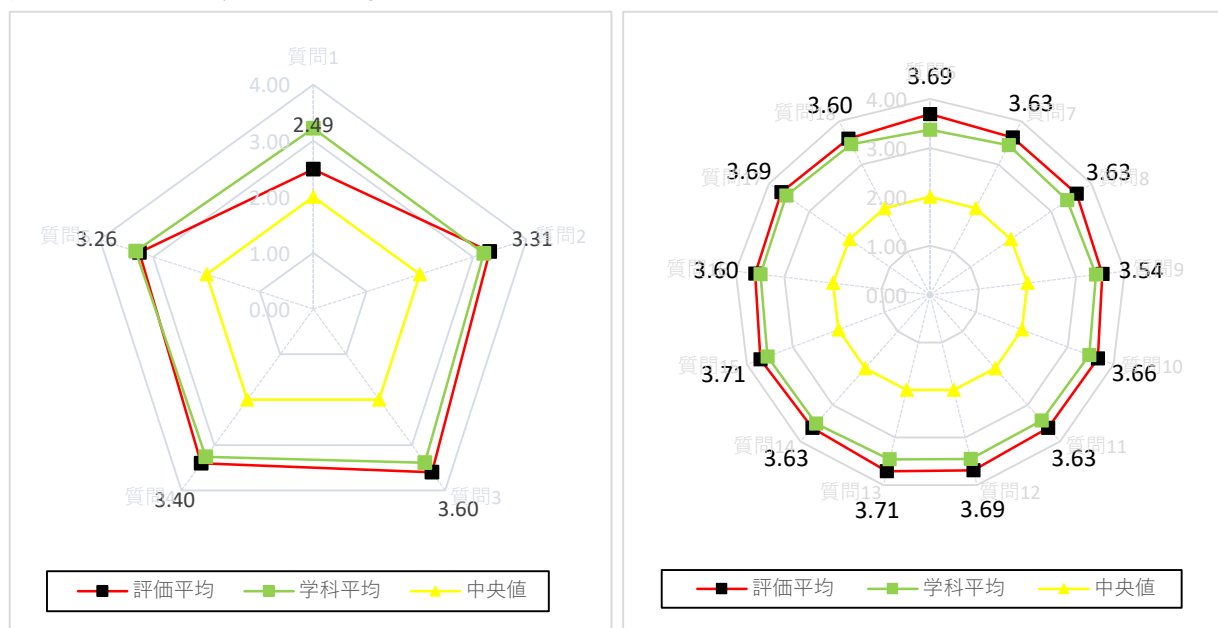
次に、質問6～18についてであるが、こちらの質問も、どの項目も学科平均より上回っていた。特に、質問6、14、15、16、17は満点であった。この授業では、レポートの書き方に力をいれており、授業の時間にレポート書く時間を設けているうえに、授業後も質問を受け入れている。また、細かく指摘や訂正を行い、学生のレポートを書く力が向上するようにしているため、この結果であったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

まず、多くの学生の意見を知るために、次年度以降はアンケートは対面で実施し、入力時間を設ける。また、授業についてであるが、評価は学科平均を上回っており、試験も例年どおりの出来であったので、おおむね今年のとおりを実施する。ただ、授業をわかりやすくする工夫はもっとできると思うので、視聴覚機器を用いたり、板書や配布資料を工夫していきたい。その際、学生の理解度にかなり差があるので、理解が遅い学生のことを配慮することを忘れないようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部	健康栄養		運動指導論	44名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

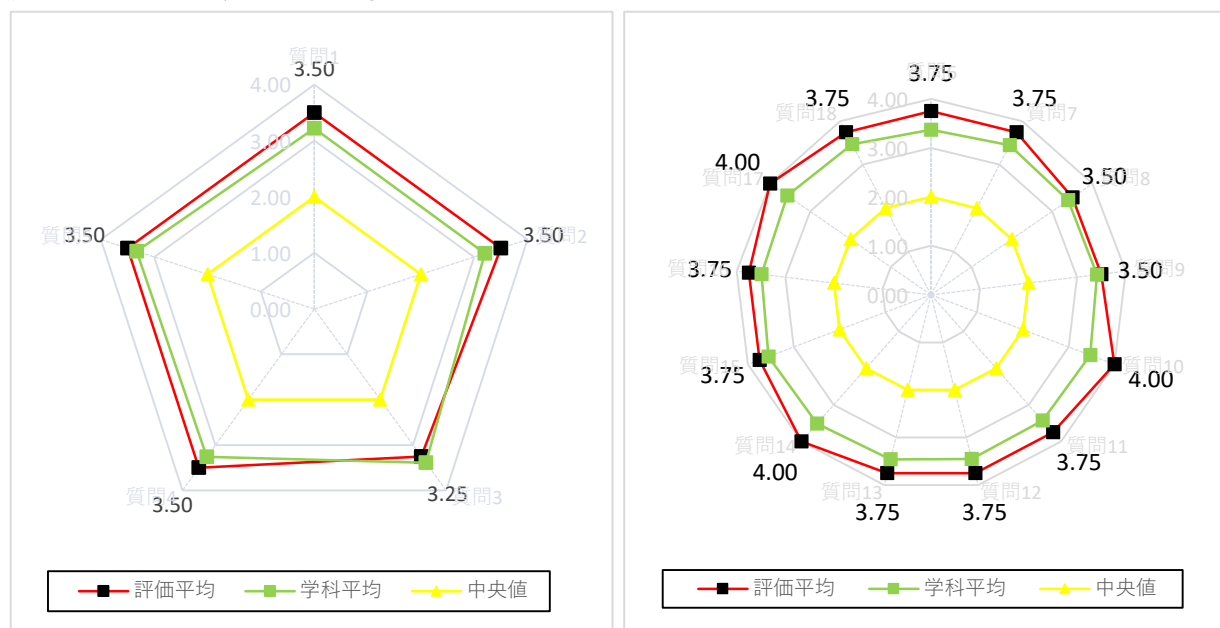
履修者43名中35名からの回答（81.4%）を得た。まず学生自身に関する項目で、質問3の授業中の態度以外は評価2や評価1の回答者があり評価平均を下げている。特に質問1の授業出席では評価平均が2.49と低かった。ただ全体の総合評価は3.26で良好な評価を得た。質問6から質問17では評価1の回答はなく、半数の質問で評価4または評価3であった。その結果、質問18の総合評価では3.6と高い評価を得た。栄養の学科で他分野の運動に関する授業内容ではあったものの、興味や関心をもって授業を履修してもらえたと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

視聴覚機材でPowerPointを使用した授業ではスライドの資料を配布して解説したり、教育映像のDVDも使用して、少しでも分かりやすい授業に努めた。また、「歩行運動の実際」の演習も取り入れて、印象の残る授業も展開した。次年度の授業も、少しでも分かりやすい授業を工夫して取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康栄養学部 健康福祉学部 看護学部	健康栄養 社会福祉 スポーツ健康福祉		特別の支援を要する児童・生徒の理解	55名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

履修者数は55名(健栄 5、社福 2、スポーツ 40、看護 8)であったが、回答者が4名(看1、スポーツ2、健栄1)と少なかった。

質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか」と質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていたか」は平均4.0と高い結果であったが、質問3「授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組んだか」が平均2.8と他の項目より低い結果がみられた。グループワークを取り入れるなど能動的な講義展開となるように工夫したが、説明が多く飽きてしまう学生もいたようであった。学生が興味関心を持てる内容を取り入れるよう授業展開を考えていきたい。

(3) 次年度に向けての取り組み

まず、今年度はアンケート回答者が少なく、次年度は受講生へ講義時に呼びかけるなど回答率を上げるように呼び掛けていく。また、講義回数が8回と少ない中で学修内容が多義にわたるため、学生が学びやすいように講義の要点を提示しながら進めていきたい。